平成　19　年度　　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート　事業番号　1−2−2

事業名	確かな学力の向上	評価実施者	所属	心の教育推進室
			職・氏名	室長　水林俊治

事業の概要

開始年度		根拠法令等		特定財源	
実施方法	■直接　□委託　□補助　□負担金　■その他〔教員の加配　〕				
目的	児童生徒に基礎・基本を確実に定着させ、確かな学力を育成するために、個に応じた指導を図る子どもの実態把握と指導体制づくり				
事業内容	・少人数指導・ティームティーチングなどの指導方法の工夫・改善に積極的に取り組む。 ・標準学力検査を実施し、児童生徒の学力の実態の的確な把握と学習指導の改善を図る。				

事業コスト

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	特記事項
事業費(A)	2,712	2,653	2,560	6,511	6,434	
うち一般財源						
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	2,712	2,653	2,560	6,511	6,434	※単位：千円

実績と成果

区分			単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果
事業の実績（アウトプット）	1	ティームティーチング等	人	9	9	9	11		全小中学校において、4月の第四火曜日に全国学力・学習状況調査を実施（成果として、その結果を学力向上対策に生 かすための学力向上プランを作成）
	2	標準学力検査の実施	校	11	11	11	11		
	3								
事業の成果（アウトカム）	1								
	2								
	3								

評価項目	点数	判定及び説明・考察	
1 適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4 □3 □2 □1
		②事業を市が行う必要性があるか。	■4 □3 □2 □1
		上記目的を達成するために、市独自の事業も必要である。	
2 有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4 □3 □2 □1
		④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4 □3 □2 □1
		一人一人の学習状況を的確に把握するために、標準学力検査を全小中学校において実施し、その結果分析を行い、学習指導に活かしている。	
3 目標達成度	7	⑤目標の水準は適切か。	■4 □3 □2 □1
		⑥計画通りに目標を達成できたか。	□4 ■3 □2 □1
		各学校では、標準学力検査を実施し、児童生徒の実態を把握し、学力向上対策の検討に役立てることができた。	
4 経済性効率性	7	⑦コストは縮減しているか。	□4 ■3 □2 □1
		⑧事務は効率的に行われているか。	■4 □3 □2 □1
		市費による持ち出しはあるものの、個に応じた指導が図られ、基礎的・基本的な学習事項の定着や学習意欲の向上が見られる。	

総合評価	合計	ランク（A〜E）	上記評価を踏まえた事業の課題
合計↓100点換算	30 /32 94 /100	A	教育課程の編成・実施・評価・改善について、指導助言を行う。 □拡充　□縮小・統廃合　■質的向上　□スピードアップ　■検証　□現状維持

◎外部評価

評価項目	点数	判定		合計	点検・評価に関するコメント
1 適応性	8	①	■4 □3 □2 □1	合計 30 /32	学力向上は永遠の課題でもあり、施策が妥当なのか、推進状況がどうなのか、常に向上を追求していかなければならない。
		②	■4 □3 □2 □1		
2 有効性	8	③	■4 □3 □2 □1	↓	
		④	■4 □3 □2 □1	100点換算 94 /100	
3 目標達成度	7	⑤	■4 □3 □2 □1		
		⑥	□4 ■3 □2 □1		
4 経済性効率性	7	⑦	□4 ■3 □2 □1	ランク A	
		⑧	■4 □3 □2 □1		

教育相談員兼学習支援員にかかわる成果と課題について

滝川市立東栄小学校

☆小規模校における学習到達度や学力向上策、複式教育の指導方向の工夫・改善に係わるの実践状況

【成　果】

1．学習支援員としての役割

(1)　複式学級における指導体制の工夫や学力向上の対策として十分に機能している。

○　2・3の複式学級における協力教授（ＴＴ）を効果的に行っている。

○　1・2の生活科におけるＴＴや補助員としての効果をあげる。

○　2年生の学力向上策として、算数科を2・3年の複式から単式の形態にして指導効果を上げている。（週4時間程度）

○　学級担任の教材づくりの援助や支援員自身のアイディアによる教材作りに貢献している。

(2)　学級担任の補欠授業者として

○　学級担任が欠けた場合（病欠・出張等）の補欠授業を組むことができ、自習にならずに、予定通りの児童の予定学習を進めることができる。また、安全管理の点においても有効である。

(3)　特別支援教育学級における支援員として

○　職員朝会の時間帯における特別支援児童（情緒障害：多動性有り）への世話などの対応にあたることにより、学級担任が朝会に参加できる。

○　学級担任以外に学習や生活安全上必要な時に、補助やＴＴとして配置できる。

○　発達障害傾向（要観察）のある児童への支援にあたり成果をあげている。

2．教育相談員としての役割

○　日常の学校生活（朝・休み時間等）における校内巡視により、子どもたちの様子の把握とその場での指導（直接指導）が可能である。

○　日常の校内生活で、学級担任の目の届かないことろでの子どもたちへの支援（遊び等）と学級担任への情報提供ができる。

○　学級経営や生徒指導上の問題がある学級において、個別指導にあたることにより、未然化、円満化を図ることに有効である。

3．校務分掌上のサポートとして

○　小規模であるが故、一人が複数の業務が重なる場合がある。その時に、相談や手伝いなどの援助者として貢献している。

【課　題】

1．予算の関係上、一日に勤務する時間に制約があり、放課後等での情報交流や打ち合わせ等の時間を確保する努力はしているが、それにも限界があるので十分な打ち合わせができない。

2．勤務時間の関係で、全体研修や職員会議等に基本的には参加できないため、共通理解を図るのに支障もある。必要に応じて延長することもあるが、十分とはいえない状態である。

3．教育相談員としての業務と学習支援員としての業務を兼ね備えた支援員としては、子どもにとって、また学校にとっても大変有効である。しかし、実質的な勤務内容と本人の経済基盤を考えると、それに見合う給与（時間給）保証をすることにより一層の勤務意欲につながると考える。
（障害児、小・中・高1、図書司書各免許有り）

「指導方法の工夫改善を実践する江部乙中学校への教員配置研究事業」

滝川市立江部乙中学校

1 具体的な研究内容と事業報告

研究課題　「共にわかり、共に高まる授業のあり方」～少人数・グループ学習の追究

※　学校全体で、きめの細かな個別指導あり方を研究

2 背景

江部乙校区にあっては児童数の減少により，幼少中と１０年間、１学級という閉塞感のある教育環境が続きます。お互いがよく分かり仲が良く、まとまる反面、人間関係の固定化が進みやすく，ともすると切磋琢磨の気概も薄らぐ傾向が見られます。今回のできごとからの状況改善策として，可能であれば意図的に、中学校生活にて一度２学級に分かれ，お互いを外からみて切磋琢磨する人間関係を作らせたいと考えました。しかし、該当の２学年に心理的負担や特別な意識をさせることなく行うには、１学級３９名の３年生を２学級に分けることが最良と考えました。学級編成の許可は、道教委に対して協議を申し出て、特例許可を得ました。２年間の配置ですので、来年度になると課題を抱えていた２年生も３年生になり自ずと２学級に分かれ，当初の目的を達することができます。また、学校研究課題として「共にわかり、共に高まる授業の追究として、効果的な少人数・グループ学習のあり方を研究し２年後の公開研に向けて成果を上げているところです。

3 方策

①、教員定数１名増加枠により、学級編成の許可を、道教委に対して協議を申し出て、特例許可を得る。３学年を少人数２学級化　A組２０人　B組１９人　とする

②、１年・２年の英語と数学をT・Tとして実施

③、全学年理科、１年・２年の国語をT・Tとして実施

④、選択授業において、「探求・深化」と「補充・復習」の教科の開設

4 成果と課題

①個別指導により、一人一人の学習意欲や関心が高まり全体のレベルアップが図れた

②少人数学級とT・Tのきめ細かい指導により基礎学力の定着を図ることが出来た。

※平成１９年度全国学力テスト結果の結果より

③少人数学級により一人一人の教育相談を充実させ、生徒の思いや希望を実現させる生徒指導が充実

④複数学級化により、固定化しがちな人間関係の中に切磋琢磨のみられる、望ましい集団が形成

⑤現在，全教職員あげて，負の遺産解消のため，生徒一人一人の心に寄り添い，お互いを思いやる心の充実に努めいじめ撲滅を図っております。さらに加配により当該学年生徒に，「心の裏側を聞く」カウンセリング手法などを用い，一人一人の心の内面に深く迫る生徒指導に努め，「心の居場所」「安らぎのある学校」を創って参りたいと考えております。

⑥嘱託教諭（市職員）の勤務運用について検討の必要があります。

※出張旅費　引率旅費　研修旅費　時間外勤務　部活動対応　等が未対応でした。

平成　19　年度　　**教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート**　事業番号　1－3－1

事業名	進路指導の充実	評価実施者	所属	滝川西高等学校事務局
			職・氏名	事務長　松澤　公和

事業の概要

開始年度	19	根拠法令等		特定財源	サテライト受講料
実施方法	■直接	□委託	□補助	□負担金	□その他〔　〕

目　的	・一人ひとりの能力・適性・関心に対応したきめ細かな指導をする体制の確立 ・本校の校風である「文武両道」を実現するため、部活動をしながらも生徒の進学意欲、進路実現に応える ・学力の向上と大学入試センター試験に対応した講習の充実 ・特色ある学校作り
事業内容	・進路カルテの作成　…　1年次から進路カルテを作成することにより、3年間を見通した指導の充実 ・サテライト講習の実施　…　進学希望者のニーズに対応した教材の提供

事業コスト

区　分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特記事項
事業費(A)			750	750	750	サテライト講習　平成20年度予算ベース
うち一般財源			750	0	0	進路カルテ　市費予算なし
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	0	0	750	750	750	※単位：千円

実績と成果

区分			単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果
事業の実績（アウトプット）	1	受講者数	人			159	526	444	サテライト講習延べ受講者数 平成20年度⇒10月末の数値
	2								
	3								
事業の成果（アウトカム）	1	国公立大合格者		6	6	14	10		延べ合格者数
	2	私大合格者		76	97	82	83		
	3	高等看護学校		10	14	14	14		

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			②事業を市が行う必要性があるか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			・現在の厳しい経済・社会状況を把握し、カルテを参考に進路指導部・HR担任・教科担任が連携を図り、生徒個々の能力・適性・関心を見ながら希望に応じた的確な指導を行える。 ・3年生の“ハイレベル”と1・2年生中心の“基礎・基本レベル”の2本立てで実施。また、ビジネス科の進学率が高まってきており、ビジネス科では対応できない科目についても補っている。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			・カルテには、希望進路（進学・就職）、評定平均、欠席日数、部活動や学力を把握するための項目を設け、指導記録を記載する中で、生徒の心の変化、学習面・生活面の変化など把握することができ、指導するに当たり有効である。 ・個別ブースの設置により部活動との両立がより可能となった。また、一般入試を受ける生徒も増えおり、そのニーズに合わせた教材を提供している。	
3	目標達成度	6	⑤目標の水準は適切か。	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1
			・進路決定状況（平成20年3月27日現在） 全体　97.41%　進学　98.95%（大学・短大・高看・専門学校）　就職　95.71% ・3年計画で20名程度（普通科定数の15%）の国公立合格者 平成18年度　14名　9.1%（普通科11名、ビジネス科3名） 平成19年度　10名　7.7%（普通科9名、ビジネス科1名）	
4	経済性効率性	8	⑦コストは縮減しているか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			⑧事務は効率的に行われているか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			サテライト講習については、受講者（父母）への多大なる負担とならないこと及び講習体制の継続的な運営の維持を図ることができる受講料を設定し、実施している。	

総合評価				
合計	30 /32	ランク（A～E）	上記評価を踏まえた事業の課題	平成21年度以降のサテライト講習の実施形態が変更にされることに伴う経費の増並びに講習科目の減。
↓100点換算	94 /100	A		□ 拡充　□ 縮小・統廃合　■ 質的向上　□ スピードアップ　□ 検証　□ 現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判定			点検・評価に関するコメント
1	適応性	8	① ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	合計	30 /32	市立高校として、特色を待たせた教育を維持してほしい。
			② ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1			
2	有効性	8	③ ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	↓100点換算	94 /100	
			④ ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1			
3	目標達成度	6	⑤ □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1			
			⑥ □ 4 ■ 3 □ 2 □ 1			
4	経済性効率性	8	⑦ ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	ランク	A	
			⑧ ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1			

事業名	スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究事業（SELHi）	評価実施者	所属	滝川西高等学校事務局
			職・氏名	事務長　松澤　公和

事業の概要		
開始年度	19	根拠法令等 ／ 特定財源
実施方法	□直接　■委託　■補助　□負担金　□その他〔　〕	
目的	・基礎・基本の定着（input–intake–output） ・文法・訳読に偏った指導法の改善 ・生徒の特性・学力に応じた指導法の研究開発 ・英語運用能力の向上	
事業内容	・基礎・基本定着のための少人数指導とTTによる授業の研究 ・オールイングリッシュによる授業の実施 ・大学教授等を講師に招いての出前講座の実施 ・英語能力の分析のためのテストの実施	

事業コスト 区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	特記事項
事業費(A)				9	136	
うち一般財源				9	136	文部科学省より、250万円の予算配当あり
人件費(B)				1,417	2,408	
総コスト(A)+(B)	0	0	0	1,426	2,544	※単位：千円

実績と成果 区分		単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果
事業の実績（アウトプット）	1							
	2							
	3							
事業の成果（アウトカム）	1							
	2							
	3							

評価項目	点数	判定及び説明・考察	
1 適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4 □3 □2 □1
		②事業を市が行う必要性があるか。	■4 □3 □2 □1
		・本校は、国際交流事業に積極的に取り組んでいる ・英語を活用した職業を希望する生徒がいる ・国際的共通語としての認識	
2 有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4 □3 □2 □1
		④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4 □3 □2 □1
		・オールイングリッシュ、少人数による授業展開による理解度及び英語能力の向上 ・進路の選択肢の拡大（進学・就職） ・進学希望者にとっても英語は必須科目であることから有効	
3 目標達成度	6	⑤目標の水準は適切か。	□4 ■3 □2 □1
		⑥計画通りに目標を達成できたか。	□4 ■3 □2 □1
		3年計画である初年度を終了し、本校の英語教育は、大きく改善されたと考える。少人数授業を実現したことにより、英語の運用能力を高めることができた。また、オールイングリッシュで授業を展開することにより、生徒の英語による発言が格段に増えた。	
4 経済性効率性	7	⑦コストは縮減しているか。	□4 ■3 □2 □1
		⑧事務は効率的に行われているか。	■4 □3 □2 □1
		SELHiの実施に伴い、教員1人が研究にかかわる事務を併任していること及び少人数授業の実施（クラスを2分割）により、他の教員だけでは授業数を確保できないことから時間講師を単費で採用（SELHi事業による人件費の補助なし）いるが、上記に記した有効性並びに目標達成度（1年目）から見ても、費用に見合った成果が得られていると考える。	

総合評価	合計	29 /32	ランク（A～E）	上記評価を踏まえた事業の課題
	↓ 100点換算	91 /100	A	・教科書の難易度と生徒の実態があっていない ・教師主体の説明的授業から生徒の活動による授業への展開 □拡充　□縮小・統廃合　■質的向上　□スピードアップ　□検証　□現状維持

◎外部評価

評価項目	点数	判定		合計・ランク	点検・評価に関するコメント
1 適応性	8	①	■4 □3 □2 □1	合計 29 /32	3年で終わらせることなく続けてほしい。
		②	■4 □3 □2 □1		
2 有効性	8	③	■4 □3 □2 □1	↓	
		④	■4 □3 □2 □1	100点換算 91 /100	
3 目標達成度	6	⑤	□4 ■3 □2 □1		
		⑥	□4 ■3 □2 □1		
4 経済性効率性	7	⑦	□4 ■3 □2 □1	ランク A	
		⑧	■4 □3 □2 □1		

平成 19 年度　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート　事業番号 2−2−1

事業名	利用者サービスの向上	評価実施者	所属	社会教育課図書館
			職・氏名	副館長 中寺静江

事業の概要

項目	内容
開始年度	S48
根拠法令等	滝川市図書館条例、施行規則、新業務提要
特定財源	
実施方法	■直接 □委託 □補助 □負担金 □その他〔 〕
目的	市民に親しまれ、活用される図書館として利用者サービスの向上と生涯学習活動の拠点として市民ボランティアとの協働を図る。
事業内容	・祝日開館、開館時間延長、インターネットの市民開放、古本もってけ祭、図書館ボランティア活動等

事業コスト

区分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特記事項
事業費(A)	14,497	12,619	12,630	18,852	15,356	人件費職員5名、嘱託4名、臨時職員3名
うち一般財源	14,497	12,619	12,630	18,852	15,356	
人件費(B)	51,463	50,057	47,416	53,145	58,655	
総コスト(A)+(B)	65,960	62,676	60,046	71,997	74,011	※単位：千円

実績と成果

区分		分	単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果
事業の実績（アウトプット）	1	祝日開館	日	−	5	7	3	4	インターネット検索利用者～(H19)1068人、(H18)716人
	2	開館時間延長	日	38	34	34	26	25	
	3	ボランティア活動	日	−	179	166	137	−	
事業の成果（アウトカム）	1	祝日開館利用者	人	−	392	960	323	416	
	2	開館時間延長利用者	人	−	662	631	544	440	
	3	ボランティア活動時間	時間	−	1,036	1,468	1,216	−	

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	7	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1
			②事業を市が行う必要性があるか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			図書館はどこでもだれもが利用ができる環境をつくるため、図書コーナー、巡回文庫等で貸出を実施している。貸出業務では、蔵書の電算化が課題。人と本をつなぐ役割が職員にあり、コミュニケーションを図ることで、利用者ニーズも把握しやすい。多様化する課題解決のためのレファレンスには、所蔵している図書、資料の内容に精通し、幅広い知識と積み重ねた経験を持つ職員が必要である。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			利用者サービスの向上として、祝日開館、夏期期間の開館時間延長など利用しやすい環境の改善に取り組んでいる。ボランティア活動として、図書館事業へ参加協力を得て、生涯学習活動の拠点化を進めている。施策や運営方針等の実現に取り組んでいる。	
3	目標達成度	8	⑤目標の水準は適切か。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			目標の水準は適切であり、計画どおりに業務を遂行している。	
4	経済性効率性	6	⑦コストは縮減しているか。	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1
			⑧事務は効率的に行われているか。	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1
			施設管理費については、指定管理者の施設設備と共有しているため、契約期間内の削減は難しい。自助努力として、資料の資源化対策や節電等に取り組んでいる。パソコンの配置により、掲示や事務の効率化が図られたが、貸出業務等は、電算化していない状況である。	

総合評価			
合計	29 /32	ランク（A～E）	上記評価を踏まえた事業の課題
↓100点換算	91 /100	A	利用の促進やレファレンス対応に必要な蔵書・資料の充実。祝日、開館時間延長等の利用促進と図書館ボランティア活動の活性化。 □ 拡充 □ 縮小・統廃合 □ 質的向上 □ スピードアップ □ 検証 ■ 現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判定		合計	点検・評価に関するコメント
1	適応性	7	①	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1	合計 29 /32	現時点で施設環境や利便性が良くない中で、事業を実施していることがわかる。現設備の状況を維持しながら市民ニーズに合わせたサービスの向上に取り組んでほしい。
			②	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
2	有効性	8	③	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	↓100点換算	
			④	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	91 /100	
3	目標達成度	8	⑤	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
			⑥	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
4	経済性効率性	6	⑦	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1	ランク	
			⑧	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1		

図書館事業の全体　（H19年度）

管理運営　○祝日開館
○夏期期間の開館時間延長（６月～８月の木・金曜日）
○古本もってけ祭（６月末）
○図書館ボランティアの受入
○図書館司書実習生の受入
○空知館内教職員地域研修・職場体験学習の受入
○インターンシップの受入

巡回文庫　市内29か所を月１回巡回
地域と学校区（８小・中学校）

読書普及　○子ども読書週間事業
特別行事・ボランティアと協働「ゆかいなゆかいなおはなしのたまてばこ」
○読書週間事業
０歳～３歳児をもつ親子対象のおはなし会「おいで赤ちゃんえほんであそぼ」２回
絵本のおはなし会「ゆかいなたまてばこ」 ２回
絵本の中のおともだちへの手紙展示
特別展示「時代小説」
図書館探検隊 小学生を対象に３回
大人のための絵本コンサート
朗読会
○絵本のおはなし会「たまてばこ」毎週土曜日（月４回）
○妊婦スクール（年６回）
○乳幼児健診（4･5ケ月、9･10ケ月、１才6ケ月）各月１回 年１２回
○親子絵本画展
○ＰＲ
図書館倶楽部、プレス空知「おすすめの絵本」、ＦＭ’Ｇスカイ「小さな図書室」
広報「たきかわ」、特設コーナー設置

絵本の心普及　○出前「たまてばこ」
（H17～19）　親子ひろば「とんとん」、育児サークル、老健施設「カルミア」
子育て支援センター、花月児童センター
○絵本の読み聞かせ講習会「えほんだいすき」
○パネルシアター製作講習会、上演

学校との連携
○読書アルバム配布、100冊達成事に賞状発行
○学校図書館訪問
○図書館訪問
○ブックキャラバン
○ブックフェスティバル
○おすすめの本の紹介
○学校貸出（１小学校）、貸出文庫（全小学校、３中学校）
○巡回文庫（８小・中学校）

＊中空知広域市町村圏事業
○おはなしカーニバル

年度別利用状況

（H16年～H19年度）

年度		H16	H17	H18	H19
本館	開館日数	276	280	282	279
	登録者数	3,886	3,690	3,366	3,193
	貸出冊数	104,233	102,321	98,754	96,612
	（児童）	29,693	29,714	27,686	28,791
	（一般）	74,540	72,607	71,068	67,821
	相談業務	858	1,197	945	1,272
	相互貸借	543	658	551	687
図書コーナー	登録者数	359	305	268	276
	貸出冊数	5,211	4,260	3,856	3,862
	（児童）	1,073	683	364	481
	（一般）	4,138	3,577	3,492	3,381
巡回文庫	運行日数	91	90	115	120
	登録世帯数	334	321	151	115
	登録個人数			744	765
	貸出冊数	14,110	14,669	12,326	13,008
	（児童）	6,074	6,938	6,815	7,154
	（一般）	8,036	7,731	5,511	5,854
貸出文庫	登録数	38	31	84	93
	貸出冊数	9,287	9,203	29,183	27,434
	（児童）	8,163	7,205	26,887	25,363
	（一般）	1,124	1,998	2,296	2,071
宅配	登録数	1	1	1	2
	貸出冊数	59	74	77	120
	（児童）	0			
	（一般）	59	74	77	120
出前移動図書館	貸出冊数	1,210	2,219	－	－
貸出冊数合計		134,110	132,746	144,196	141,036
人口		45,685	45,226	44,831	44,394
蔵書冊数		117,995	119,405	123,494	118,776
図書購入費		5,710	5,190	4,461	4,111

図書館事業利用状況（H16～H19）

<本館>

	登 録 者 数			入館者数		
	児童	一般	計	児童	一般	計
H16年度	1,210	2,676	3,886	16,862	31,996	48,858
H17年度	1,153	2,537	3,690	16,935	30,347	47,282
H18年度	1,022	2,344	3,366	14,554	28,812	43,366
H19年度	1,023	2,170	3,193	13,734	27,311	41,045

		貸出件数			貸出冊数		
	開館日数	児童	一般	計	児童	一般	計
H16年度	276	7,638	20,382	28,020	29,693	74,540	104,233
H17年度	280	7,551	19,754	27,305	29,714	72,607	102,321
H18年度	282	7,064	19,148	26,212	27,686	71,068	98,754
H19年度	279	7,176	18,145	25,321	28,791	67,821	96,612

<図書コーナー>

	登 録 者 数			入室者数			貸出冊数		
	児童	一般	計	児童	一般	計	児童	一般	計
H16年度	125	234	359	2,045	2,211	4,256	1,073	4,138	5,211
H17年度	79	226	305	1,831	1,687	3,518	683	3,577	4,260
H18年度	57	211	268	1,517	1,608	3,125	364	3,492	3,856
H19年度	66	210	276	1,891	1,691	3,582	481	3,381	3,862

<巡回文庫>

	登録		巡回数	貸出冊数		
	世帯数	個人数		児童	一般	計
H16年度	334		557	6,074	8,036	14,110
H17年度	321		563	6,930	7,739	14,669
H18年度	151	744	328	6,815	5,511	12,326
H19年度	115	765	351	7,154	5,854	13,008

<貸出文庫>

	登録件数	利用件数	貸出冊数			
			児童	一般	計	
H16年度	38	155	8,163	1,124	9,287	
H17年度	31	153	7,205	1,998	9,203	
H18年度	84	378	26,887	2,296	29,183	＊1学級100冊まで
H19年度	93	498	25,363	2,071	27,434	＊1学級50冊に制限

<宅配>

	登録件数	貸出件数	貸出冊数		
			児童	一般	計
H16年度	1	12	0	59	59
H17年度	1	13	0	74	74
H18年度	1	10	0	77	77
H19年度	2	24	0	120	120

図書館利用状況（H16～H19）

＜絵本の読み聞かせ「たまてばこ」＞

	実施回数		参加者数			
		前年比	子ども	大人	計	前年比
H16年度	46	3	1,722	1,280	3,002	453
H17年度	46	0	1,629	1,210	2,839	-163
H18年度	43	-3	1,098	846	1,944	-1,058
H19年度	43	0	973	803	1,776	-168

＜妊婦スクール＞

	実施回数		参加者数	
		前年比		前年比
H16年度	6	0	159	33
H17年度	6	0	137	-22
H18年度	6	0	132	-27
H19年度	6	0	95	-37

＜開館時間2時間延長＞

	実施日数		利用状況	
	日数	前年比	利用者	貸出冊数
H16年度	33	0	706	1,863
H17年度	33	0	624	1,500
H18年度	34	1	570	1,321
H19年度	26	-8	544	986

＊H18まで期間6～9月　＊H19から期間6～8月

＜ひよっこ 1歳6ヶ月＞

	実施回数		参加者数	
		前年比		前年比
H16年度	12	0	744	-133
H17年度	12	0	808	64
H18年度	12	0	623	-121
H19年度	12	0	672	49

＜ひよっこ 9～10ヶ月＞

	実施回数		参加者数	
		前年比		前年比
H16年度	9	9	626	626
H17年度	12	3	645	19
H18年度	12	0	675	49
H19年度	12	0	699	24

＜ひよっこ 4～5ヶ月＞

	実施回数		参加者数	
		前年比		前年比
H16年度	9	9	671	671
H17年度	12	3	670	-1
H18年度	12	0	751	80
H19年度	12	0	736	-15

＜インターネット検索サービス＞

		利用者		
	日数	男	女	合計
H18年度	267	421	295	716
H19年度	279	697	371	1,068

＜祝日臨時開館＞

	実施日数		利用状況	
		前年比	利用者	貸出冊数
H17年度	5	5	392	899
H18年度	7	2	960	1,815
H19年度	3	-4	323	713

＜ボランティア活動＞

	実施日数		活動状況	
	会員数	活動日数	延人数	延時間
H17年度	26	179	518	1,036
H18年度	34	166	734	1,468
H19年度	38	137	608	1,216

平成　19　年度　**教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート**　事業番号　2−2−2

事業名	読書普及	評価実施者	所属	社会教育課図書館
			職・氏名	副館長　中寺静江

事業の概要	開始年度	S48	根拠法令等	滝川市立図書館条例、施行規則、新業務提要	特定財源
	実施方法	■直接　□委託　□補助　□負担金　□その他〔　〕			
	目的	利用者ニーズの把握や課題解決に役立てる図書・資料の充実に取り組み、読書への関心や意欲を高め、生涯にわたる読書の習慣化を目指して、読書普及を推進する。			
	事業内容	読書週間事業では、読み聞かせボランティアの協力を得た特別行事の実施や読書への関心が高まるように、図書の紹介や特設コーナーの設置、特別展示などを開催。乳幼児からの絵本との出会いの場を提供するために、定期的に絵本のおはなし会、出前によるおはなし会を実施する。本のリサイクルとして古本もってけ祭なども開催し、市民の読書意欲を高める。読み聞かせボランティアへの講習会、上演等も実施。			

事業コスト 区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	特記事項
事業費(A)	812	682	628	279	268	
うち一般財源	812	682	628	279	268	
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	812	682	628	279	268	※単位：千円

実績と成果 区分			単位	H16	H17	H18	H19	H20
事業の実績(アウトプット)	1	読書週間事業行事開催数	回	11	7	14	10	
	2	「絵本のおはなし会」実施数	回	43	46	43	43	
	3	妊婦・乳幼児検診時のおはなし会実施数	回	18	42	42	42	
事業の成果(アウトカム)	1	読書週間特別行事参加者数	人	534	456	322	436	
	2	「絵本のおはなし会」参加者数	人	2,549	2,839	1,944	1,776	
	3	妊婦・乳幼児検診時のおはなし会実施数	人	1,003	2,260	2,181	2,202	

左記以外の19年度の実績・成果

読書週間事業では、毎回趣向を凝らした行事や展示を実施し、利用の促進を図った。子ども読書週間事業では、特別行事を1日に集約し、読み聞かせボランティアやグループ、國學院短大の学生の協力を得て実施した。

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4□3□2□1
			②事業を市が行う必要性があるか。	■4□3□2□1
			多様化する課題解決のためにレファレンスの充実や読書の普及としておすすめ本の紹介、個人の調査研究に役立てるよう相互貸借による資料の提供などを実施している。図書館の業務は、専門的な知識や経験が必要なことから直営での実施が必要。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4□3□2□1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4□3□2□1
			読書週間事業では、特別行事を趣向を凝らして実施し、利用の促進を図っている。誰もが利用できるように親しみやすい環境づくりを目指している。	
3	目標達成度	6	⑤目標の水準は適切か。	□4■3□2□1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	□4■3□2□1
			利用者のニーズを考慮し、図書の紹介、テーマに沿った特設コーナーを設置し、利用者の読書への興味付けに取り組んでいる。読書普及事業については、計画を予定通りに進めている。	
4	経済性効率性	6	⑦コストは縮減しているか。	□4■3□2□1
			⑧事務は効率的に行われているか。	□4■3□2□1
			行事等の消耗品の削減を実施している。	

総合評価	合計	28 /32	ランク(A〜E)	上記評価を踏まえた事業の課題
	↓100点換算	88 /100	A	読み聞かせボランティアの育成と人材を確保し、読み聞かせ活動の充実と活動の拠点化。人と本をつなぐ役割を一層発揮できるよう職員資質の向上。活用され、魅力ある図書館づくりの検討及び図書・資料の充実。 ■拡充　□縮小・統廃合　□質的向上　□スピードアップ　□検証　□現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判定			点検・評価に関するコメント
1	適応性	8	① ■4□3□2□1	合計	28 /32	読書普及として多くの事業を行っていることがわかる。利用者にニーズ等の現状を踏まえ、事業の継続に取り組んでほしい。
			② ■4□3□2□1			
2	有効性	8	③ ■4□3□2□1	↓100点換算	88 /100	
			④ ■4□3□2□1			
3	目標達成度	6	⑤ □4■3□2□1			
			⑥ □4■3□2□1			
4	経済性効率性	6	⑦ □4■3□2□1	ランク		
			⑧ □4■3□2□1			

読書普及活動（H19年度）

(1)行 事

開催日	行事名	場所	参加人数
4月～3月	絵本の読み聞かせ「たまてばこ」(毎週土曜日 計43回)	図書館	1,776人
4月～3月	妊婦スクール「おなかの赤ちゃんとお話しよう」(年6回)	保健センター	95人
4月～3月	1歳6ヵ月児健診時の絵本の読み聞かせ「ひよっこ」(年12回)	保健センター	672人
4月～3月	9～10ヵ月児健診時の絵本の読み聞かせ「ひよっこ」(年12回)	保健センター	699人
4月～3月	4～5ヵ月児健診時の絵本の読み聞かせ「ひよっこ」(年12回)	保健センター	736人
4月～3月	図書館ボランティア受入(毎週水～土曜日の2時間 137日 1,216時間)	図書館	734人
4月 26日	子ども読書週間特別行事「ゆかいなゆかいなおはなしのたまてばこ」	図書館	170人
4月 27日・10月19日	花月児童センター子ども広場「おはなし会」(2回)	花月児童センター	165人
5月 3日～5月 5日	祝日臨時開館(3日間)	図書館	323人 (利用者数)
5月17日・5月24日	読み聞かせ講習会「えほんだいすき」(2回)	図書館	52人
5月25日～6月21日	パネルシアター製作講習会(7回)	図書館	83人
6月 1日～8月30日	開館時間2時間延長(毎週木・金曜日 計26日間)	図書館	544人
6月30日	第9回古本もってけ祭	図書館	572人
7月 1日	なかそらち おはなしカーニバル	たきかわホール	24人
7月11日～7月21日	パネルシアター上演講習会・発表(4回)	図書館	28人
8月14日～9月14日	インターンシップ学生受入(國學院短大)	図書館	1人
8月15日～8月25日	図書館司書実習生の受入(國學院短大)	図書館	3人
8月29日～9月22日	読み聞かせ講習会・発表(全3回)(第三小読み聞かせボランティア)	図書館	19人
9月30日～3月30日	図書館ボランティア研修会(2回)/新規応募者研修会(2回)	図書館	25人
10月3日～4日	職場体験学習 明苑中学校生徒(2年生)受入	図書館	5人
10月4日	空知管内初任教職者「地域研修」として読書指導等実施	図書館	9人
10月10日～10月12日	職場体験学習 江部乙中学校生徒(3年生)受入	図書館	2人
10月20日～10月27日	読書週間事業「ゆかいなたまてばこ」実施(2回)	図書館	144人
10月20日～11月10日	読書週間事業「絵本の中のお友だちへの手紙」展示	図書館	
10月20日～11月10日	読書週間事業「時代小説展」	図書館	
10月23日	職場体験学習 石山中学校生徒(3年生)受入	図書館	2人
10月25日～26日	読書週間事業「おいで赤ちゃんえほんとあそぼ」(2回)	図書館	46人
10月27日	読書週間事業「図書館探検隊」	図書館	7人
10月28日	読書週間事業「朗読会」	図書館	19人
11月8日	読み聞かせ講習会(江部乙小PTAボランティア)	図書館	5人
11月10日	読書週間事業「大人のための絵本コンサート」	図書館	50人
11月15日～11月16日	インターンシップ生徒受入(滝川西高校)	図書館	1人
1月18日～2月13日	追悼・鳥海尽三展	図書館	
2月19日～3月14日	インターンシップ学生受入(國學院短大)	図書館	2名
2月21日～3月9日	親子絵本画展	図書館	
3月22日	図書館訪問(ボーイスカウト滝川第一団)	図書館	1人

(2)学校との連携による子どもの読書活動支援(読書推進事業)

開催日	行事名	場所	参加人数
4月中	読書アルバムの配布	各小学校(西小除く)	2,316人
4月～3月	「読書アルバム」100冊達成毎に賞状配布	各小学校(西小除く)	142人
5月 9日・2月29日	連絡会議(2回)	第二小、図書館	17人
6月19日～11月30日	図書館訪問(調べ学習、施設見学、利用案内、一の坂タイム等	東小、第三小、西小 江陵中、第一小	274人
6月22日～1月28日	学校図書館訪問(教諭、PTA対象に5回実施) (書架配架・整理、本の修繕等の指導・実施)	江陵中、東小 第二小	42人
7月12日～7月20日	ブックキャラバン(読書感想文用図書の巡回貸出)	各中学校	495人
7月～1月	「読書感想文のおすすめの本」「ねえ、この本読んでみない？」、 「大切な心について考えよう。」のちらし作成	各小・中学校	3,550人
2月8日・2月20日	ﾌﾞｯｸ・ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ(第三小、東小)	第三小・東小	904人

平成　19　年度　**教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート**　事業番号　2－2－3

事業名	学校との連携による子どもの読書活動支援	評価実施者	所属	社会教育課図書館
			職・氏名	副館長　中寺静江

事業の概要	開始年度	H16	根拠法令等	特定財源
	実施方法	■直接　□委託　□補助　□負担金　□その他〔　〕		
	目的	学校との連携を図り、多くの子どもたちに身近な場所で本に触れる環境を整備し、本への興味と読書意欲を高められるようなきっかけをつくり、子どもの読書活動の推進と読書の習慣化を目指す。		
	事業内容	貸出事業～学校、巡回、貸出文庫、ブックキャラバン 読書推進事業～学校訪問、図書館訪問、連絡会議、レインボー通信、おすすめ本の紹介、読書アルバムの配布 ブックフェスティバルの開催等 PTAボランティアへの図書装備等の支援、読み聞かせ等		

事業コスト 区分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特記事項
事業費(A)	1,500	1,000	879	868	833	
うち一般財源	1,500	1,000	879	868	833	
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	1,500	1,000	879	868	833	※単位：千円

実績と成果 区分		分	単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果
事業の実績(アウトプット)	1	貸出文庫登録数	団体	23	18	48	57		市内2小学校でブックフェスティバルを開催し、多種多様な本との出会いの場を提供し、本への興味や読書意欲の向上に取り組んだ。また、各中学校では、ブックキャラバンを実施し、読書感想文用図書として317冊を貸出し、本に親しむ機会を提供した。
	2	巡回文庫登録数	世帯	184世帯	191世帯	736個人	615個人		
	3	学校貸出登録	団体	1	1	1	1		
事業の成果(アウトカム)	1	貸出文庫利用冊数	冊	5,819	5,233	24,014	20,494		
	2	巡回文庫利用冊数	冊	2,904	4,208	6,044	6,862		
	3	学校貸出冊数	冊	1,800	1,803	1,811	1,804		

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4□3□2□1
			②事業を市が行う必要性があるか。	■4□3□2□1
			子どもたちへの読書環境の改善や読書普及に取り組み、朝読書や家での読書ができる環境を整え、読書活動の促進を図っている。巡回文庫等で子どもから直接、リクエストを受けることができ、ニーズの把握もしやすく、児童・生徒に合わせておすすめの本の紹介もしている。読書へのきっかけづくりとして読書アルバムを配布するとともに、読書の習慣化を図るためには、子どもが興味を持つ時期に合わせた本の紹介やいろいろな本との出会いの場が必要である。学校との連携を図りながら、PTAやボランティア等と共に子どもの読書できる環境の整備や本と子どもをつなぐ役割が図書館にある。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4□3□2□1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4□3□2□1
			読書に興味をもつきっかけづくりには、いろいろな本との出合える機会が必要であり、貸出文庫や巡回文庫等で貸出し、読書できる環境を整えている。児童の読書に対する興味は徐々に高まっており、読書アルバム100冊達成者も増加傾向にある。	
3	目標達成度	8	⑤目標の水準は適切か。	■4□3□2□1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	■4□3□2□1
			読書の習慣化を目指しており、読書できる環境の整備に取り組んでいる。読書量調査を実施していないが、読書できる環境が改善され、読書が身近になってきている。	
4	経済性効率性	6	⑦コストは縮減しているか。	□4■3□2□1
			⑧事務は効率的に行われているか。	□4■3□2□1
			消耗品等のコストは削減している。貸出業務への人的な負担は大きい。事務は、電算化することで効率的に処理が可能だが、現在は、未整備のため、効率的とはいえない。	

総合評価				
合計	30 /32	ランク(A～E)	上記評価を踏まえた事業の課題	貸出文庫等の物流と電算化処理の検討。学校文庫、貸出文庫等の運用検討。絵本・児童書等の充実。
↓100点換算	94 /100	A		□拡充　□縮小・統廃合　□質的向上　□スピードアップ　□検証　■現状維持

◎外部評価

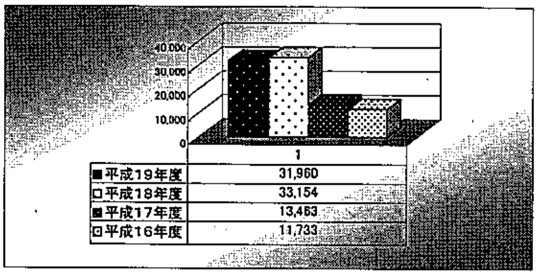
評価項目		点数	判定			点検・評価に関するコメント
1	適応性	8	①■4□3□2□1	合計	30 /32	子どもの読書活動支援のために沢山の事を実施していることがわかるので、継続して取り組んでほしい。今後、学校図書館とのネットワーク化の可能性を図書館移転時に検討しては。
			②■4□3□2□1			
2	有効性	8	③■4□3□2□1	↓100点換算	94 /100	
			④■4□3□2□1			
3	目標達成度	8	⑤■4□3□2□1			
			⑥■4□3□2□1			
4	経済性効率性	6	⑦□4■3□2□1	ランク		
			⑧□4■3□2□1			

平成19年度　学校との連携による子どもの読書活動支援事業報告

【貸出事業】

事業名	学　校　名	登録合計	利用合計	貸出児童	貸出一般	貸出合計
貸出文庫	第一小学校	12	108	5,152	0	5,152
	第二小学校	7	50	2,218	0	2,218
	第三小学校	4	27	1,285	212	1,497
	西小学校	6	44	2,209	0	2,209
	東小学校	7	34	2,311	17	2,328
	東栄小学校	7	49	2,247	0	2,247
	江部乙小学校	7	63	2,882	0	2,882
	小学校合計	50	375	18,304	229	18,533
	江陵中学校	0	0	0	0	0
	明苑中学校	1	1	0	9	9
	開西中学校	1	1	15	18	33
	江部乙中学校	5	39	1,919	0	1,919
	中学校合計	7	41	1,934	27	1,961
	総　合　計	57	416	20,238	256	20,494

年度別貸出総数比較表



事業名	学　校　名	登録件数	利用件数	貸出児童	貸出一般	貸出合計
学校貸出	第三小学校	1	4	1,804	0	1,804
	合　計	1	4	1,804	0	1,804

事業名	学　校　名	登録合計	利用合計	貸出児童	貸出一般	貸出合計
ブック・フェスティバル	第三小学校	16	16	1,326	0	1,326
	東小学校	12	12	1,157	0	1,157
	合　計	28	28	2,483	0	2,483

事業名	学　校　名	登録児童	登録一般	登録合計	利用児童	利用一般	利用合計	児童書	一般書	貸出合計
巡回文庫	第一小学校	172	0	172	725	0	725	1,690	316	2,006
	西小学校	104	0	104	412	0	412	1,058	120	1,178
	東小学校	137	1	138	375	2	377	754	168	922
	東栄小学校	51	0	51	474	0	474	1,219	207	1,426
	江部乙小学校	82	0	82	418	0	418	932	104	1,036
	小学校合計	546	1	547	2,404	2	2,406	5,653	915	6,568
	江陵中学校	10	1	11	53	2	55	42	75	117
	開西中学校	4	0	4	12	0	12	3	14	17
	江部乙中学校	55	9	64	104	14	118	50	110	160
	中学校合計	69	10	79	169	16	185	95	199	294
	総　合　計	615	11	626	2,573	18	2,591	5,748	1,114	6,862

事業名	学　校　名	登録児童	登録一般	登録合計	利用児童	利用一般	利用合計	児童書	一般書	貸出合計
ブック・キャラバン	江陵中学校	69	1	70	72	1	73	67	96	163
	明苑中学校	22	3	25	22	3	25	22	30	52
	開西中学校	35	0	35	36	0	36	29	56	85
	江部乙中学校	4	0	4	11	0	11	2	15	17
	小学校合計	130	4	134	141	4	145	120	197	317

貸出事業　学校別貸出総数

	平成19年度			平成18年度			平成17年度			平成16年度		
学校名	貸出冊数	児童1人当たり	児童数	貸出冊数	児童1人当たり	児童数	貸出冊数	児童1人当たり	児童数	貸出冊数	児童1人当たり	児童数
第一小	7,158	22.80	314	10,523	34.17	308	2,660	8.18	325	2,825	8.38	337
第二小	2,218	4.27	520	3,219	6.09	529	2,618	4.69	558	1,671	2.98	561
第三小	4,627	10.31	449	7,337	16.16	454	2,406	5.43	443	2,197	5.05	435
西小	3,387	7.36	460	828	1.85	448	1,641	3.58	458	949	1.99	478
東小	4,407	12.52	352	2,368	6.20	382	416	1.08	386	1,343	3.40	395
東栄小	3,673	72.02	51	4,428	80.51	55	1,258	18.78	67	1,488	21.88	68
江部乙小	3,918	23.05	170	3,963	22.02	180	2,464	14.16	174	1,260	7.08	178
合計	29,388	12.69	2,316	32,666	13.87	2,356	13,463	5.58	2,411	11,733	4.79	####
江陵中	280	0.61	458	88	0.19	457						
明苑中	61	0.14	444	0	0.00	426						
開西中	135	0.59	227	118	0.49	239						
江部乙中	2,096	19.96	105	282	2.85	99						
合計	2,572	2.08	1,234	488	0.40	1,221						
総合計	31,960	9.00	3,550	33,154	9.27	3,577						

【読書推進事業】

事　業　名	実施月日	場　所	参加者	内　　容
学校訪問	6月22日	江陵中	教諭　1名	図書室環境改善(複本の学級への振り分け、書架移動、図書移動)
	6月29日	江陵中	教諭・図書館ボランティア7名	図書室環境整備(複本の学級への振り分け、図書移動・整理、コーナーづくり(朝読書・総合・戦争・心等)、見出し作成)
	8月8日	江陵中	図書館ボランティア　6名	図書室環境整備(細目の見出しづけ、図書の並べ替え、おすすめの本のコーナーづくり)
	9月12日	第二小	PTA　5名	図書の修理指導、読み聞かせ会への参加
	1月28日	東小	読書委員16名、PTA5名、教諭2名	図書のブッカーかけ指導
計	5回		42名	

事　業　名	実施月日	実施校	参加者	内　　容
図書館訪問	6月19日	東小	児童(6年)56名、教諭・PTA4名	調べ学習(福祉、医療、植物等)、貸出文庫選書
	10月24日	第三小	児童(2年)86名、教諭2名	施設見学、利用案内
	11月7日	西小	児童(2年)63名、教諭3名	施設見学、利用案内、質疑応答
	11月8日	江陵中	生徒(3年)20名	調べ学習(福祉)
	11月13日	江陵中	生徒(1年)36名	調べ学習(環境)
	11月30日	第一小	児童(5年)4名	「一の坂タイム」インタビュー
計	6回		274名	

事　業　名	実施月日	場　所	参加者	内　　容
連絡会議	5月11日	第二小	小・中学校図書担当教諭　10名	18年度事業報告、19年度事業計画、情報交換
	2月29日	図書館	小・中学校図書担当教諭　7名	19年度事業経過報告、20年度事業案、情報交換
計	2回		17名	

事　業　名	実施月日	実施先	対　象	内　　容
「おすすめの本」	7月	全小学校	児童　2，316名	「読書感想文のおすすめの本」のチラシ作成・配布
	7月	全中学校	生徒　1，234名	「読書感想文のおすすめの本」のチラシ作成・配布
	11月	全小学校	児童　2，316名	「ねぇ、この本読んでみない？」のチラシ作成・配布
	11月	全中学校	生徒　1，234名	「ねぇ、この本読んでみない？」のチラシ作成・配布
	1月	全小・中学校	児童　2，316名 生徒　1，234名	「大切な「心」について考えよう。」のチラシ作成・配布
計	5回		10，650名	

事業名	購入図書	冊数
図書の整備	児童書	620冊
	一般書	21冊
	合計	641冊

事業名	実施月日	配布先	対象	内容
読書アルバム	4月	第一小、第二小、第三小、東小、東栄小、江部乙小	各小学校児童 2，316名	読んだ本の記録を残す「読書アルバム」を配布（100冊まで記入可能。25冊ずつ確認欄を設ける） ※西小学校は、学校の顔づくり事業で取り組んでいる「読書通帳」を実施
	随時	全小学校	各小学校児童 「読書アルバム」達成者	「読書アルバム」（100冊）達成者に賞状を配布 ※「たくさん読んだで賞」の賞状に学校名・学年組・氏名・冊数を入れて作成・配布 100冊達成 108名、200冊達成 23名、 300冊達成 6名、400冊達成 4名、 500冊達成 1名 合計 142名
計			2，316名	

事業名	実施月日	場所	参加者	内容
ブック・キャラバン	7月12日	江陵中	入場者 194名	昼休み～放課後 1階 被服室 読書感想文用、ヤングアダルト向きの図書（約500冊）を貸出 1人5冊、期間は始業式まで ※巡回用の学校貸出券を使用 ［登録］一般 1名 児童 69名 計 70名 ［利用］一般 1名 児童 72名 計 73名 ［貸出］一般 96冊 児童 67冊 計 163冊
	7月13日	開西中	入場者 141名	昼休み～放課後 2階 視聴覚室 読書感想文用、ヤングアダルト向きの図書（約500冊）を貸出 1人5冊、期間は始業式まで ※巡回用の学校貸出券を使用 ［登録］一般 0名 児童 35名 計 35名 ［利用］一般 0名 児童 36名 計 36名 ［貸出］一般 56冊 児童 29冊 計 85冊
	7月18日	明苑中	入場者 88名	放課後 玄関 読書感想文用、ヤングアダルト向きの図書（約500冊）を貸出 1人5冊、期間は始業式まで ※学校貸出券で貸出 ［登録］一般 3名 児童 22名 計 25名 ［利用］一般 3名 児童 22名 計 25名 ［貸出］一般 30冊 児童 22冊 計 52冊
	7月20日	江部乙中	入場者 72名	放課後 玄関 読書感想文用、ヤングアダルト向きの図書（約500冊）を貸出 1人5冊、期間は始業式まで ※巡回用の学校貸出券を使用 ［登録］一般 0名 児童 4名 計 4名 ［利用］一般 0名 児童 11名 計 11名 ［貸出］一般 15冊 児童 2冊 計 17冊
計	4回		495 名	

事業名	実施月日	場所	参加者	内容
ブック・フェスティバル	2月8日	第三小	児童447名、教職員36名 図書ボランティア8名、幼児- 図書館ブック・フレンド5名 道立図書館2名 教育長、教育部長	道立図書館より借受した児童図書の貸出、しかけ絵本・おはなしめいろの展示、大型絵本・紙芝居の展示、PTAボランティアによる絵本の読み聞かせ（プロジェクター使用） ※借受冊数は1，326冊（～3学期中 各学級に配置して利用）
	2月20日	東小	児童354名、教職員25名 おはなしの会6名 PTA8名、幼児4名 図書館ブック・フレンド4名 教育長、教育部長	道立図書館より借受した児童図書の貸出、しかけ絵本・おはなしめいろの展示、大型絵本・紙芝居の展示、PTAボランティア「おはなしの会」による大型絵本・絵巻絵本の読み聞かせ ※借受冊数は1，157冊（～3学期中 各学級に配置して利用）
計	2回		904名	

平成 19 年度　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート　事業番号 2−2−4

事業名	巡回文庫	評価実施者	所属	社会教育課図書館
			職・氏名	副館長　中寺静江

事業の概要

項目	内容
開始年度	S49
根拠法令等	滝川市立図書館条例、施行規則、新業務提要
特定財源	
実施方法	■直接 □委託 □補助 □負担金 □その他〔　〕
目的	図書館に来られない人のために、身近な場所で読書できるよう支援する。
事業内容	地域、学校区の29ステーションで、1か月1回の巡回車による貸出を実施する。地域は、世帯登録とし、20冊まで、学校区は、児童への個人登録とし、5冊まで貸出を行う。

事業コスト

区分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特記事項
事業費(A)	703	679	524	533	512	
うち一般財源	703	679	524	533	512	H18年度から月1回の巡回に変更した。
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	703	679	524	533	512	※単位：千円

実績と成果

区分			単位	H16	H17	H18	H19	H20
事業の実績(アウトプット)	1	巡回回数	回	557	563	328	351	
	2	世帯登録数	件	334	321	151	115	
	3	個人登録数	件	0	0	744	765	
事業の成果(アウトカム)	1	貸出冊数	冊	14,110	14,669	12,326	13,008	
	2							
	3							

左記以外の19年度の実績・成果：平成18年度から学校区を3小学校から5小学校に巡回することにより、身近な場所で本を提供でき、利用が増加したが、地域での利用は、減少している。H18年度から児童の個人登録を開始した。

評価

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4 □3 □2 □1
			②事業を市が行う必要性があるか。	■4 □3 □2 □1
			図書館から離れた地域で、図書館への交通手段がない市民にとっては、必要なサービス。個人情報保護や図書の貸出管理等から直営が好ましい。	
2	有効性	7	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4 □3 □2 □1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	□4 ■3 □2 □1
			交通手段のない市民や学校帰りの児童等には効果的。地域サービスの一環で開始したが、利用する市民が減少している。小学校区においては、児童が学校で図書を気軽に借りれることで利用が伸びている。	
3	目標達成度	8	⑤目標の水準は適切か。	■4 □3 □2 □1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	■4 □3 □2 □1
			現図書館への交通の便や遠隔地、学校帰りに立ち寄れない場所にあることから、継続して実施。学校区での子どもの貸出が増加していることでは目標を達成している。	
4	経済性効率性	4	⑦コストは縮減しているか。	□4 □3 ■2 □1
			⑧事務は効率的に行われているか。	□4 □3 ■2 □1
			地域巡回の利用状況から効率的なステーションを設定。学校区での利用が多く、公用車1台も稼働しているため、人的な面でコスト削減になっていない。事務的には、電算化していないことから、事務の軽減、コスト削減にならない。	

総合評価

合計	27 /32
100点換算	84 /100
ランク(A〜E)	B
上記評価を踏まえた事業の課題	巡回文庫は、車両の老朽化等による廃止と代替策の検討。

□拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピードアップ ■検証 □現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判定	
1	適応性	8	①	■4 □3 □2 □1
			②	■4 □3 □2 □1
2	有効性	7	③	■4 □3 □2 □1
			④	□4 ■3 □2 □1
3	目標達成度	8	⑤	■4 □3 □2 □1
			⑥	■4 □3 □2 □1
4	経済性効率性	4	⑦	□4 □3 ■2 □1
			⑧	□4 □3 ■2 □1

合計 27 /32　↓100点換算 84 /100　ランク

点検・評価に関するコメント：学校との連携事業と重なる部分があるので、ステーションの見直しを含め整理統合すべき。

平成　19　年度　　**教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート**　　事業番号　3−1−6

事業名	博物館活動の充実	評価実施者	所属	美術自然史館
			職・氏名	副館長　森　昌之

事業の概要	開始年度		根拠法令等		特定財源
	実施方法	■直接　□委託　■補助　□負担金　□その他〔　〕			
	目的	芸術文化と創造活動、そして地球と生命を学ぶ拠点である「美術自然史館」、こどもの科学する心を育む拠点である「こども科学館」、歴史的文化遺産保存・研究の拠点である「郷土館」、人と自然をつなぐ拠点「森のかがく活動センター」を活性化することで、「創造文化のまち」を実現する。			
	事業内容	博物館の使命・役割を果たし、個性ある地域文化を創造するため、郷土ゆかりの3作家などの作品・資料収集及び調査研究、空知川の化石調査・資料収集などに努め、その成果として収蔵作品を活用したコレクション展「とまれ！地球温暖化展」や人物デッサン会などの普及事業を開催したほか、子どもたちの科学の興味・関心の裾野を広げる「わくわくサイエンス」事業や「移動郷土館」「村田武雄・たきかわ野の花事業」に取り組んだ。			

事業コスト	区分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特記事項
	事業費(A)				4,004		特定財源
	うち一般財源				3,371		コミュニティー助成金　500千円
	人件費(B)						普及事業参加料　133千円
	総コスト(A)+(B)	0	0	0	4,004	0	※単位：千円

実績と成果	区分		単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果
	事業の実績（アウトプット）	1							
		2							
		3							
	事業の成果（アウトカム）	1							
		2							
		3							

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	7	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4 □3 □2 □1
			②事業を市が行う必要性があるか。	□4 ■3 □2 □1
			個性ある豊かな市民文化と、市民が支える創造的な活動の環境づくりを築き「創造文化のまち」を実現するため、様々な団体や市民との連携を深めながら、地域の資源を活用した特色のある展覧会、普及事業等を展開する必要がある。なお、今後は各種団体や市民との協働や連携なども検討する必要がある。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4 □3 □2 □1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4 □3 □2 □1
			滝川市は「創造文化のまち」の実現へ向けて様々な文化振興施策を行っているが、その中で地域固有の課題に応える博物館として事業を実施することで、多くの市民が地域の魅力を再発見し、心の豊かさを感じるとともに、様々なものへの興味・関心を喚起する機会となり、潤いと活力あるまちづくりに寄与した。	
3	目標達成度	7	⑤目標の水準は適切か。	■4 □3 □2 □1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	□4 ■3 □2 □1
			少ない予算の中、博物館の使命・役割を達成するための目標設定は適切であり、様々な事業を通じて多くの市民が質の高い芸術や郷土の歴史、科学に触れる機会となり、事業の効果は上がっている。ただ、他団体や市民との連携や協働などやや不十分な点も見受けられた。	
4	経済性効率性	7	⑦コストは縮減しているか。	■4 □3 □2 □1
			⑧事務は効率的に行われているか。	□4 ■3 □2 □1
			少ないスタッフと予算の中で効率的で、かつ、効果的な企画展や普及事業等の組み立てに務めたが、より一層作業の能率化・効率化を図るとともに、魅力ある事業を展開する必要がある。	

総合評価	合計	29 /32	ランク（A〜E）	上記評価を踏まえた事業の課題	地域固有の課題に応える博物館として、それぞれの使命を果たし、知名度向上と入館者増を図るため、他の博物館とのネットワークの構築や連携を推進するとともに、コストを縮減しながら取り組む必要がある。
	↓100点換算	91 /100	A		□拡充　□縮小・統廃合　■質的向上　□スピードアップ　□検証　□現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判定			点検・評価に関するコメント
1	適応性	7	① ■4 □3 □2 □1	合計	29 /32	・博物館を含め社会教育施設は行財政改革の対象になりやすい。市民との協働も含め将来的なビジョンを持ってほしい。
			② □4 ■3 □2 □1			
2	有効性	8	③ ■4 □3 □2 □1	↓		
			④ ■4 □3 □2 □1	100点換算	91 /100	・博物館の活動はソフト事業が最たるもの。若手をの作品や著名な作品を集めた展覧会など、人が集まる企画をしていく必要があると思う。質的向上を目指してほしい。
3	目標達成度	7	⑤ ■4 □3 □2 □1			
			⑥ □4 ■3 □2 □1			
4	経済性効率性	7	⑦ ■4 □3 □2 □1	ランク	A	
			⑧ □4 ■3 □2 □1			

事業名	「りんごの木への想い。一木万寿三展」

評価実施者	所　属	美術自然史館
	職・氏名	副館長　森　昌之

事業の概要				
開始年度	H19	根拠法令等		特定財源
実施方法	■ 直接　□ 委託　■ 補助　□ 負担金　□ その他〔　〕			
目　的	滝川市出身の洋画家・一木万寿三画伯と画伯の育った江部乙のりんご園との関わりを、画伯の作品とりんごに関するワークショップを通じて広く市民に紹介し、地域の芸術文化振興に資するとともに、江部乙に点在する「りんご室」をギャラリーとし、ワークショップ作品や創作発表の場とすることで、地域の歴史的文化資源を活用も図り、ふるさとの魅力を再発見、まちの活性化につなげる。			
事業内容	一木万寿三画伯の作品展示と画伯の育ったりんご園との関わりをパネル等で紹介（来場者1,448人）。また、りんごアートワークショップ（参加者37人）やりんご室バスツアー（参加者22人）、りんご室ギャラリー（来場者85人）などの関係事業を開催した。			

事業コスト 区　分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特　記　事　項
事業費(A)				2,390		特定財源
うち一般財源				768		(財)地域創造助成金　1,400千円
人件費(B)						入場料　222千円
総コスト(A)+(B)	0	0	0	2,390	0	※単位：千円

実績と成果 区　分			単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果
事業の実績（アウトプット）	1								
	2								
	3								
事業の成果（アウトカム）	1								
	2								
	3								

評価項目		点数	判　定　及　び　説　明　・　考　察	
1	適応性	7	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			②事業を市が行う必要性があるか。	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1
			芸術文化は人々に精神的な豊かさや感動を与えるとともに、人々のコミュニケーションを活発化し、生きる勇気と喜びをもたらす普遍的な力を持っている。活力ある地域社会を構築し、まちの魅力を高めるためにも、芸術活動と創造活動の拠点として美術自然史館の充実を図る必要があり、地域の文化資源を活用するなど特色のある展覧会を継続して開催する。なお、今後は市民との協働や美術協会との連携など検討する必要がある。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			滝川市は「創造文化のまち」の実現へ向けて様々な文化振興施策を行っているが、その中で地域固有の課題に応える博物館として企画展を開催することで、多くの市民が地域の魅力を再発見するとともに、心の豊かさを感じる機会となり、潤いと活力あるまちづくりに寄与した。	
3	目標達成度	8	⑤目標の水準は適切か。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			美術自然史館は滝川市出身で、北海道の洋画家界の重鎮である一木万寿三画伯の企画展及びまちの魅力を再発見する関連事業を開催したことで、市民一人ひとりが心の豊かさを実感し、郷土に対し誇りを持つことのできる機会となった。	
4	経済性効率性	7	⑦コストは縮減しているか。	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1
			⑧事務は効率的に行われているか。	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1
			少ないスタッフと予算の中で効率的で、かつ、効果的な企画展の組み立てに務めたが、より一層作業の能率化を図る必要がある。	

総合評価			
合計 30 /32 ↓ 100点換算 94 /100	ランク（A～E） A	上記評価を踏まえた事業の課題	地域固有の課題に応える博物館として、多くの市民に心の豊かさを感じてもらい、誇りを持ってもらえる魅力ある企画展の開催に務める必要がある。 □ 拡充　□ 縮小・統廃合　■ 質的向上　□ スピードアップ　□ 検証　□ 現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判　定			点検・評価に関するコメント
1	適応性	7	①	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	合計 30 /32	・地元に芸術家が多い。博物館を中心に盛り上げてもらいたい。
			②	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1		・博物館は自治体で運営するのは大変だろう。
2	有効性	8	③	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	↓	・学校との連携はあるのか？ぜひ行なってほしい。
			④	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	100点換算 94 /100	・人数だけで評価できない、基準をどこに置くのか難しい。コツコツと実績を積み上げていくしかない。
3	目標達成度	8	⑤	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
			⑥	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
4	経済性効率性	7	⑦	■ 4 □ 3 □ 2 □ 1	ランク A	・ピカソとまではいかないが、スケールの大きな展覧会などできると良い。五十嵐威暢さんの作品を常設するなど。
			⑧	□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1		

平成　19　年度　　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート　事業番号　3－1－8

事業名	博物館アウトリーチ事業「ちいさな・はくぶつかん」	評価実施者	所　属	美術自然史館
			職・氏名	主査　半井　仁

事業の概要				
開始年度		根拠法令等		特定財源
実施方法	■直接　□委託　□補助　□負担金　□その他〔　　〕			
目　的	博物館に収蔵する資料、調査研究の成果をわかりやすく市民に伝えるとともに、博物館の活動や役割を広く市民に紹介する。			
事業内容	博物館がこれまで取り組んできた活動、事業等により蓄積した成果を「博物館体験メニュー」として取りまとめ、学校や児童館などのグループに周知し、学習や活ドア腕の活用に務める。りんごの開花から収穫までを題材にした「りんごの1年」など4事業を学校・児童館で実施し、述べ218人の子どもたちが参加した。			

事業コスト 区分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特記事項
事業費(A)				4		
うち一般財源				4		
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	0	0	0	4	0	※単位：千円

実績と成果 区分		単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果
事業の実績(アウトプット)	1							
	2							
	3							
事業の成果(アウトカム)	1							
	2							
	3							

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4 □3 □2 □1
			②事業を市が行う必要性があるか。	■4 □3 □2 □1
			博物館の収蔵・保管する資料、調査研究の成果を広く市民に伝えることは博物館の大切な使命であり、特に子どもたちにはよりわかりやすく伝えることが求められている。そして、博物館の活動をより理解してもらい、施設を利用してもらうためには、具体的にどのような学習や活動ができるかを示す必要がある。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4 □3 □2 □1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4 □3 □2 □1
			市内の子どもたちは、休日は家族で訪れる機会はあるが、博物館との距離が離れている学校や児童等は、移動時間や交通手段の関係で利用しにくい現状がある。そのような課題に対して、アウトリーチ活動を行うことで少しでも多くの子どもたちが博物館活動に参加できる可能性を拡大できる。また、テーマを具体的に示すことにより、これまで見学が中心だった学習以外の様々な手法を提案できる。	
3	目標達成度	6	⑤目標の水準は適切か。	□4 ■3 □2 □1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	□4 ■3 □2 □1
			児童館の利用が多い反面、学校の授業での利用が伸びていない。PR方法も課題だが、より学校との連携を強め、博物館が持つ専門性を学校の授業の中で有効活用してもらう方策を検討する必要がある。また、科学館メニューの利用が多いが、利用の少ない分野もあり、テーマや内容の見直しも図っていくことが必要である。	
4	経済性効率性	8	⑦コストは縮減しているか。	■4 □3 □2 □1
			⑧事務は効率的に行われているか。	■4 □3 □2 □1
			事業に必要な教材費等は参加団体に負担してもらっており、コストの縮減に努めている。	

総合評価	合計 ↓ 100点換算	ランク(A～E)	上記評価を踏まえた事業の課題
	30 /32		より一層の利用促進を図るため、メニュー・内容等を充実させるとともに、PRも積極的に行う必要がある。
	94 /100	A	■拡充　□縮小・統廃合　■質的向上　□スピードアップ　□検証　□現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判定			点検・評価に関するコメント
1	適応性	8	① ■4 □3 □2 □1	合計	30	・学校と連携するのであれば、早い時期に調整しなければ難しい。
			② ■4 □3 □2 □1	↓	/32	・学習指導要領や授業の内容なども研究し、授業で活用できるメニューも考える必要がある。
2	有効性	8	③ ■4 □3 □2 □1	100点換算	94 /100	・来年度学習指導要領が改訂になり、博物館の役割も重要になってくる。実際は学校との連携は難しいものがある。
			④ ■4 □3 □2 □1			
3	目標達成度	6	⑤ □4 ■3 □2 □1			
			⑥ □4 ■3 □2 □1			
4	経済性効率性	8	⑦ ■4 □3 □2 □1	ランク	A	・自治体が運営する努力は大変なものだが、他からの力も借りながら盛り立ててほしい。
			⑧ ■4 □3 □2 □1			

平成 19 年度　**教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート**　事業番号 3−1−9

事業名	郷土館開館30周年記念「たきかわ・昭和のこどもたち展」	評価実施者	所属	美術自然史館
			職・氏名	副館長 森 昌之

事業の概要			
開始年度		根拠法令等		特定財源	
実施方法	■直接　□委託　□補助　□負担金　□その他[　　]
目的	郷土館開館30周年を記念し、昭和30〜40年代をテーマに展示を行うことにより、写真を中心とした資料の充実を図る。また、当時を懐かしく振り返る展示を通じて、再び多くの市民に郷土館に目を向けていただく機会とする。
事業内容	郷土館開館30周年を記念し、その歴史を振り返るとともに、2階展示室のリニューアルに取り組む。 展示は、滝川が最も活気づいていた昭和30〜40年代の滝川のこどもたちがテーマで、写真を中心に当時の子どもの文化や風俗、街並みを紹介する内容。併せて学校・茶の間など各コーナーにテーマを設定し、既存展示をリニューアルする。

事業コスト

区分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特記事項
事業費(A)				220		
うち一般財源				220		
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	0	0	0	220	0	※単位：千円

実績と成果

区分		分	単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果
事業の実績（アウトプット）	1								
	2								
	3								
事業の成果（アウトカム）	1								
	2								
	3								

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	7	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4 □3 □2 □1
			②事業を市が行う必要性があるか。	□4 ■3 □2 □1
			滝川市民の郷土の歴史に対する意識が薄れていく中、将来のまちづくりのため、先人の築いたものを未来に伝える必要性がある。歴史資料の充実を図るとともに、多くの市民に目を向けてもらう展示を行うことで、郷土の歴史を知り、魅力を再発見する機会となることから、郷土研究会等との連携を図りながら市が主体的に実施する必要がある。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4 □3 □2 □1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4 □3 □2 □1
			H19教育行政執行方針に基づき、より一層利用される郷土館を目指し事業を開催したが、多くの市民が郷土の歴史を理解することに寄与したが、郷土研究会との連携などについてさらに研究を要する。また、郷土の歴史を語り継ぐための資料の充実にも寄与した。	
3	目標達成度	6	⑤目標の水準は適切か。	□4 ■3 □2 □1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	□4 ■3 □2 □1
			少ない予算の中、郷土館の使命・役割を達成するための目標設定は適切であり、期間中600人を越える市民が郷土館を訪れ、郷土の歴史に触れる機会となった。なお、事業の効果は上がったが、郷土研究会等との連携などやや不十分な点も見受けられた。	
4	経済性効率性	7	⑦コストは縮減しているか。	■4 □3 □2 □1
			⑧事務は効率的に行われているか。	□4 ■3 □2 □1
			必要最小限の経費で展示物の作成及びリニューアルを行っており、少ない経費の中で効果を上げている。	

総合評価	合計	28 /32	ランク(A〜E)	上記評価を踏まえた事業の課題	郷土の歴史を後世に伝えるためにも、資料の収集・保存・活用に務めるとともに、郷土館により多くの市民に来館してもらう機会を作る必要があるが、郷土館運営の予算が非常に少ない中、郷土研究会等との連携を深め、定期的なリニューアルに務めるなどの必要性がある。
	↓100点換算	88 /100	A		□拡充　□縮小・統廃合　■質的向上　□スピードアップ　□検証　□現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判定			点検・評価に関するコメント
1	適応性	7	① ■4 □3 □2 □1	合計	28	・頑張ってもらいたい。
			② □4 ■3 □2 □1			・福寿大学で展覧会を見に行く機会がある。福寿大学の力は大きいので、大学メニューとの連携を考えると良い。
2	有効性	8	③ ■4 □3 □2 □1	↓	/32	
			④ ■4 □3 □2 □1	100		・みんなに喜ばれる事業を考えてほしい。
3	目標達成度	6	⑤ □4 ■3 □2 □1	点	88	・収蔵資料を増やすことと、きちんと保管する必要がある。もっと予算をかけても良いのではないか。
			⑥ □4 ■3 □2 □1	換算	/100	
4	経済性効率性	7	⑦ ■4 □3 □2 □1	ランク	A	・学校史など学校で保管しているが状態がよくない。郷土館に移管するわけにはいかないが、状態を確認することも必要。
			⑧ □4 ■3 □2 □1			

平成　19　年度　**教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート**　事業番号　4−1−1

事業名	生涯スポーツ・体力づくりの推進	評価実施者	所属	社会教育課スポーツ振興室
			職・氏名	室長　坪田健一

事業の概要

開始年度	
根拠法令等	
特定財源	
実施方法	■直接　■委託　■補助　□負担金　□その他〔　〕
目的	総合型地域スポーツクラブの育成を通して「市民一人一スポーツ」を提唱し、生涯にわたる健康・体力づくりを支援するほか、「市民ウォーキング」「たきかわコスモスマラソン」「水中運動」などの市民参加型の事業推進により、市民が気軽に運動やスポーツに参加できる機会を提供する。また、温水プールなどを活用した水中プログラムや子どもの運動能力の向上を図る教室などを開催する。
事業内容	市および(財)滝川市体育協会、滝川市体育指導委員会のほか、平成19年2月25日に設立した総合型地域スポーツクラブ「滝川スポーツクラブ」などと連携し、料金設定したさまざまなスポーツ教室(エアロビクス・ヨガ・幼児運動・水泳・ジョギング・スケート・スキー等)とスポーツイベント(スノーレク・10人11脚大会・スポーツ塾・体力チェック等)を年間通して開催し、健康増進を図る機会を提供する。　※パンフレットの作成や広報誌などによるPR募集を行う。

事業コスト

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	特記事項
事業費(A)						※指導は、(財)滝川市体育協会職員および滝川スポーツクラブ員、体育指導委員等が行う。
うち一般財源						
人件費(B)	0					
総コスト(A)+(B)	0	0	0	0	0	※単位：千円

実績と成果

区分			単位	H16	H17	H18	H19	H20
事業の実績(アウトプット)	1	会員制導入	回	—	—	—	204	
	2	受講・参加料収入	人	—	—	—	1,917	
	3							
事業の成果(アウトカム)	1	実施事業延べ回数	回	—	98	196	335	
	2	実施事業延べ人数	人	—	3,873	4,474	5,854	
	3	温水プール教室参加者数	人	5,788	3,753	5,595	5,333	

左記以外の19年度の実績・成果

①会員制を導入(年会費)
　中学生以下500円、高校生以上1500円
②受講料を設定し、市民に受益者負担の意識づけをした。(受講料は会員と一般料金を設定)

評価

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4□3□2□1
			②事業を市が行う必要性があるか。	■4□3□2□1
			高齢者の健康維持と生活習慣病予防・介護予防を図るため、市民のニーズに合った教室の開催と、将来を見据えて幼児から基礎的な運動をする機会を提供した。 事業については、滝川スポーツクラブや(財)滝川市体育協会が指導ノウハウを生かして行い、参加者から受益者負担分としての受講料をいただき事業を進めた。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4□3□2□1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4□3□2□1
			幼児から高齢者まで幅広く参加しやすい運動プログラムを設定し、継続して参加できる教室を提供した。今後も参加者のニーズに合った教室を開催していく必要性がある。平成19年度は女性や高齢者を対象にした「エアロビクス・ヨガ・ストレッチ運動」や幼児を対象にした「元気アップ教室」、小学生低学年を対象にした「スキー・スケート教室、スポーツ塾」などの運動教室に人気があった。	
3	目標達成度	8	⑤目標の水準は適切か。	■4□3□2□1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	■4□3□2□1
			開催事業の参加延べ人数が平成18年度実績の約30%を超え、スポーツクラブ会員制を導入したことで会員数も目標200人を上回る結果となった。	
4	経済性効率性	7	⑦コストは縮減しているか。	■4□3□2□1
			⑧事務は効率的に行われているか。	□4■3□2□1
			市からの補助金は、平成19年度までとした。また、事務及び指導にあたっては、(財)滝川市体育協会・滝川スポーツクラブ職員が最小の経費で最大の効果がでるように常に工夫・改善を図ってきたが、今後も事務の効率化の検討を進めていきたい。	

総合評価

合計	31 /32	ランク(A〜E)	上記評価を踏まえた事業の課題
↓100点換算	97 /100	A	各スポーツ教室およびスポーツイベントの開催は、介護予防およびメタボリックシンドロームなど健康ブームによる社会的・市民的ニーズが高いため、今後も市民が気軽に参加できる場を提供する必要性がある。そのためには、指導者の確保が必要であり、より一層滝川スポーツクラブや(財)滝川市体育協会、関係部署と連携が必要である。 ■拡充　□縮小・統廃合　■質的向上　□スピードアップ　□検証　□現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判定		点検・評価に関するコメント
1	適応性	8	① ■4□3□2□1	合計 31 /32	各教室の参加者が多く、PRパンフレットも見やすくてとても良い。この事業は、将来的に市から民間に任せて行うことが望ましい。
			② ■4□3□2□1		
2	有効性	8	③ ■4□3□2□1		
			④ ■4□3□2□1	↓100点換算 97 /100	
3	目標達成度	8	⑤ ■4□3□2□1		
			⑥ ■4□3□2□1		
4	経済性効率性	7	⑦ ■4□3□2□1	ランク A	
			⑧ □4■3□2□1		

平成19年度滝川スポーツクラブ開催事業　申込・参加数一覧

教室・イベント	教室種類	実施回数	申込人数	参加人数
フィットネス教室	7	208	3323	2437
Kid's元気アップ教室	2	32	532	469
女性ゴルフ教室	1	6	36	35
市健康づくり課主催事業	1	8	225	225
夏休み水泳教室	2	10	125	120
小学生スケート教室	2	4	141	139
はじめてのスキー教室	1	3	84	81
スノーレク	1	1	221	180
10人11脚	1	1	170	170
スポーツフリーマーケット	1	1	350	350
北海道日本ハムファイターズフィールドクラブ野球教室	1	1	88	88
滝川陸上クラブ	1	60	1560	1560
	計	335	6855	5854

※申込数・参加者数はそれぞれ延べ人数

滝川スポーツクラブ会員数	中学生以下	122
	高校生以上	82
	計	204

体力チェック

あなたの体力年齢は何歳ですか?筋力や持久力、瞬発力などあなたの体力を測定し、体力年齢を算出します。

測定種目				
【20～64歳】	●握力 ●急歩	●上体起こし ●反復横とび	●長座体前屈 ●立ち幅跳び
【65～79歳】	●握力 ●6分間歩行	●上体起こし ●10m障害物歩行	●長座体前屈 ●開眼片足立ち

～体力チェックの流れ～

①お申込
日時・場所・人数をスポーツクラブ事務局までご連絡下さい。
↓
②体力チェック
年齢区分に応じて、6種目の測定をします。
↓
③評価・アドバイス
各測定項目の得点に基づき算出した年代別評価や体力年齢、アドバイスを記載した体力チェックシートを差し上げます。

体力チェック測定料金　1人300円

定期的に体力チェックを行うと、日頃実施している運動の効果や体力の推移が確認でき、効果的です。

出前講座

指導員がみなさんのもとに伺って、体験教室や指導を実施します!会場や用具がない場合でも、お気軽にご相談下さい。

《出前講座の料金》

指導料	1時間につき、4,000～6,000円 実施する種目により料金が異なります。
交通費	実費分ご負担いただきます。
用具・器具	それぞれの種目に必要な用具・器具をこちらで手配する場合、有料になる用具もあります。

こんな出前講座はいかがですか?
●PTAの研修会として、エアロビクス体験教室の開催
●職場の福利厚生の一環で、ストレッチ教室の開催
●保護者の会議中に、子どもを対象にニュースポーツ体験教室の開催
●町内会のお祭りの1つとして、ストラックアウトコーナーの設置

《申込方法》
種目・日時・場所・人数をスポーツクラブ事務局までご連絡下さい。
対応するスタッフを確認の上、日時等を調整いたします。

会場や日程、実施内容等が未定の場合でも、お気軽にご相談下さい。

平成20年度新規事業のご案内

平成20年度より新たに下記3事業の実施に向け、現在計画を進めています。詳細は、市広報誌やホームページにてご案内しますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

ジョギング・マラソン教室

1人で気軽に実施できるジョギングですが、いざやってみようと思っても、走り方や練習方法がわからない、一緒に走る仲間がいない等の悩みが出てきます。そこでこの教室に参加して、ジョギングを始めてみませんか?教室の仲間と一緒に練習することで、楽しくタイムの向上を目指します。運動不足の解消にも是非どうぞ!

■受講料　5,000円(たきかわコスモスマラソン2008の参加料を含む)
■練習会場　滝川陸上競技場他
■スケジュール
①お申込
スポーツセンター窓口にて、4月19日(土)までにお申込下さい。
↓
②練習
5月10日～9月6日の毎週土曜日(全20回)、15:00～17:00に練習します。
↓
③たきかわコスモスマラソン2008
練習の成果を試す機会として、9月15日(月・祝)に開催される「たきかわコスモスマラソン2008」に参加します。

スポーツ塾

小学校低学年の児童を対象に、色々な種目のスポーツを体験・練習する「スポーツ塾」を開催します。自分には、どのスポーツが合っているのか?どのスポーツが楽しいのか?色々なスポーツを体験してみよう!

プロスポーツ観戦ツアー

今北海道で盛り上がりを見せる道内プロスポーツの観戦ツアーを実施します。みんなで応援して、道内プロチームを勝利に導きましょう!

《ツアー実施予定》
■北海道日本ハムファイターズ　■コンサドーレ札幌
■レラカムイ北海道　■スキージャンプ大会

滝川スポーツクラブ入会のご案内

滝川スポーツクラブは
滝川市、滝川市教育委員会、財団法人滝川市体育協会の支援を受け、事業連携を図りながら、地域住民のみなさんの健康・体力づくりとスポーツ競技力の向上をサポートすることを目的に、各運動教室やスポーツイベントを開催し、スポーツに携わる機会を提供しています。

【年会費】　中学生以下　500円　・　高校生以上　1,500円

入会するとこんな特典があります!
その①　各教室の受講料が会員価格の割安で受講できます。
※エアロビクス・ヨガ・ストレッチ教室を同期に2種目以上受講する場合、2種目以降の受講料はなんと半額!
その②　各教室の申込が簡素化し、手続きが簡単になります。
その③　滝川ふれ愛の里が割引料金でご入浴できます。会員証をふれ愛の里受付窓口に提示し割引料金をお支払下さい。
【中学生以上】通常料金600円 ⇒ 割引料金500円　【小学生】通常料金300円 ⇒ 割引料金250円

お問合せ・お申込先　滝川スポーツクラブ事務局
〒073-0005　滝川市二の坂町東3丁目2-1　滝川スポーツセンター内
TEL (0125) 23-4617　FAX (0125) 23-4351
URL　http://www.takikawa-taikyou.jp/
※火～土曜日午前9時～午後5時、日・月曜日・祝日はお休み

1.このパンフレットの掲載内容は、年度当初の予定となるため、詳細に変更が出る場合がありますのでご了承下さい。
2.各教室・イベントは、申込人数が必要数に満たない等の理由で、中止・延期する場合がありますのでご了承下さい。
3.各教室・イベントの募集申込時期に合わせ、市が発行する広報誌「広報たきかわ」にご案内を掲載します。広報たきかわのご案内も合わせてご覧下さい。

滝川スポーツクラブ

TAKIKAWA SPORTS CLUB

楽しく元気に体を動かそう!

滝川スポーツクラブは、あなたの健康・体力づくりをサポートします。

滝川スポーツクラブ・滝川市・滝川市教育委員会・(財)滝川市体育協会《共催事業》

エアロビクス&ヨガ&ストレッチ

運動習慣のあまりない方や体力に自信のない方から、汗をかいてやせたい、美しい体を手に入れたい方まで、みなさんご参加できる色々なエアロビクス・ヨガ・ストレッチ教室をご用意しています。

教室名		曜日・時間		強度	内容
エアロビクス	楽しくエアロ	月	10:00~11:00	★★★	初心者の方でも大丈夫!楽しくスキル・体力アップします!
	シェイプアップエアロ	水	10:00~11:00	★★★★	たくさんの汗を流すとともに、美しいスタイルを目指します!
	リフレッシュエアロ	水	19:00~20:00	★★★	仕事帰りに一汗かいて、リフレッシュ!リフレッシュ!
ヨガ	リラックスヨガ	金	10:30~11:30	★★	ヨガの基本から取り組んで、日頃の疲れを癒してリラックス!
	ハリウッドヨガ	金	11:30~12:30	★★★	色々なポーズでボディメイク。目指せハリウッド女優!
ストレッチ	からだ改善講座	月	11:00~12:00	★★	無理のない誰でも参加できるプログラム。腰痛・肩こりの改善に!

●1年を4期に分け、3ヶ月毎に全10回コース、それぞれ定員25名で開催します。ご参加される場合は各期毎にお申込が必要です。
●受講料は、各コースともに1期につき、会員4,500円・会員外5,500円です。また、会員の方が同期に2コース以上受講される場合、**2コース目からは半額の2,250円**で受講することができます。
●各コースともに会場はスマイルビル地下1階「駅前広場く・る・る」になります。(滝川市栄町3丁目9−2)
●各期により、各教室曜日・時間等に変更が出る場合がありますので、ご了承下さい。

Kid's元気アップ教室

運動能力や体力の成長が著しい3~6歳の児童を対象に、運動の基礎となる「走る」「跳ぶ」「投げる」などの動作に加え、マットや跳び箱などの「器械運動」、カスタネットやタンバリンなどの楽器を使った「リズム運動」、遊びの要素を取り入れた「レクゲーム」などのプログラムで、運動能力や体力の向上を楽しくサポートします。

教室名		日程	時間	受講料
夏教室	3・4歳コース	5月8日、22日、6月5日、26日、7月10日、24日(全6回)	15:30~16:30	会員 3,000円 会員外 4,000円
	5・6歳コース	5月15日、29日、6月19日、7月3日、17日、31日(全6回)		
サマースクール	3・4歳コース	8月6日、7日、8日(全3回)	9:30~10:30	会員 1,500円 会員外 2,500円
	5・6歳コース		11:00~12:00	
秋教室	3・4歳コース	8月28日、9月18日、10月2日、16日、30日、11月13日、27日、12月11日(全8回)	15:30~16:30	会員 4,000円 会員外 5,000円
	5・6歳コース	9月4日、25日、10月9日、23日、11月6日、20日、12月4日、18日(全8回)		
冬教室	3・4歳コース	1月22日、2月5日、19日(全3回)	15:30~16:30	会員 1,500円 会員外 2,500円
	5・6歳コース	1月29日、2月12日、26日(全3回)		

●各教室はそれぞれ定員25名で開催し、各教室毎にお申込が必要です。また、各教室の会場は、スポーツセンターもしくは青年体育センターのどちらかになります。
●サマースクール3日目の8月8日は、屋外教室を予定しております。その屋外教室の実施内容により、時間・受講料に変更が出る場合がありますので、ご了承下さい。

10人11脚滝川大会

2人3脚を拡大し、10人で肩を組み、足首をバンドで固定して、30m走のタイムを競う「10人11脚滝川大会」を開催します!小学生10人以上でチームを組んで、チャンピオン目指して参加しよう!

大会参加までの流れ

10人以上でチームを組み、チームを登録
↓
各チーム自主練習、もしくはご連絡をいただければ、日程調整の上、出前指導もします!
↓
10月18日(土)体験記録会で公式タイムを計測
↓
2月28日(土)大会本番

クラスやクラブの友達と是非ご参加下さい!

スポーツフリーマーケット

7月19日(土)「すぱーく滝川」で開催!

始めたいと思っているスポーツ用品や格安スポーツ用品を探しに、スポーツフリーマーケットに出掛けよう! 掘り出し物や気になるグッズが見つかるはずです。スポーツを楽しむきっかけにどうぞお越し下さい!

フリーマーケット出店者募集!

こんなものを商品として出品し、お宅で眠ったままのまだまだ使えるスポーツ用品・健康グッズをリサイクル!
- ●もうサイズの合わなくなったお子様の衣服
- ●新しいものを買ったけど、まだまだ使えるスポーツ用品
- ●押入や部屋の片隅に置きっぱなしの健康グッズ

※出店料は500円になります。(2m×3mの1区画を予定)

多くの方の出店・ご来場をお待ちしております!

ウィンタースポーツ教室・イベント

ウィンタースポーツシーズンが本格化する冬休みの期間中に、「小学生スケート教室」「はじめてのスキー教室」のウィンタースポーツ教室や、「スノーレク2009」という雪遊びイベントを開催します。ウィンタースポーツや雪遊びを体験して、北海道の寒い冬を満喫しよう!

教室名	日時・会場	対象・定員	受講料	内容
小学生スケート教室	12月25日(木)、26日(金) 午前コース 10:00~11:30 午後コース 13:00~14:30 滝川スケートリンク	小学生 各コース50名	会員 1,000円 会員外 2,000円 貸靴代別途必要	滑り方や止まり方などの基礎技術の練習に加え、初歩的なフィギュアスケートの練習もします。ジャンプやスピンはできるかな?
はじめてのスキー教室	1月7日(水)、8日(木)、9日(金) 10:00~11:30 北電公園スロープ	小学1年生 30名	会員 1,500円 会員外 2,500円	スキーの履き方、歩き方、登り方、滑り方といった初心者向けの練習をします。これでスキー授業も安心です。
スノーレク2009	1月10日(土) 10:00~12:30 北電公園スロープ	幼児~小中学生 (保護者の参加可) 300名	会員 無料 会員外 100円	チューブすべりやスノーモービルに引っ張られるスノーラフティングなど、冬ならではの色々な雪遊びやゲームを体験します。寒さに負けず遊ぶべし!

夏休み水泳教室

楽しい水慣れから正しいフォームの習得までレベルに応じたレッスンをします。これで君も泳げるぞ!

日時	7月28日(月)~8月1日(金) 全5回 幼児コース 10:00~11:00 小学生コース 11:00~12:00
会場	滝の川市民プール「水夢」
対象・定員	幼児コース 5・6歳児 小学生コース 1~3年生 各コース20名
受講料	会員 2,500円 会員外 3,500円

北海道日本ハムファイターズ野球教室

プロ野球イースタンリーグ公式戦の開催に合わせ、野球教室を開催します。一流の技と、丁寧・熱心な指導を体感して下さい。

日程	6月14日(土)
会場	市営球場
対象	市内小学生

※開催日は予定となります。時間等詳細が決まりましたら、改めてご連絡いたします。

健康づくりウオーキング・歩くスキー

市健康づくり課と共催で、市内コースを歩くウオーキングや体力テスト、歩くスキーの各イベントを開催します。

日程	イベント
6月 4日(水)	平成20年度出発式 一の坂西公園コースウオーキング
7月16日(水)	新体力テスト①
8月26日(火)	ふれ愛の里温泉コースウオーキング
9月24日(水)	西公園コースウオーキング
10月 9日(木)	江部乙市街地コースウオーキング
11月20日(木)	健康づくりウオーキング表彰式 新体力テスト②
1月22日(木)	北電公園歩くスキー
2月12日(木)	丸加高原歩くスキー

手帳・マップの配布や登録制チャレンジの実施、サポーターの募集もしています。詳細は市健康づくり課までお問い合わせ下さい。

市健康づくり課 TEL 24−5256

小学生陸上クラブ

スポーツの基本である「走る・投げる・跳ぶ」力を鍛え、たくましい体づくりに励むとともに、記録に挑戦して向上心を養います。

日時	5月上旬から9月末日までの毎週火・木・土曜日
会場	陸上競技場他
対象	小学生4年生以上
年会費	5,000円
問合先	滝川市陸上競技協会 佐々木 義昭 TEL 22-1645
申込	4月10日(木)~4月25日(金)

女性ゴルフ教室

女性ゴルファーを対象に、基礎レッスンを開講します。初心者の方や久しぶりにクラブを握るという方はグリーンに出る前の腕慣らしに是非ご参加下さい。

日時	5月13日(火)~16日(金) 20日(火)、21日(水)の全6回
会場	すぱーく滝川、市民ゴルフ場
定員	15名
受講料	会員 2,000円 会員外 4,000円

温水プール水泳教室

温水プールでは、様々な年齢・レベルに合わせた水泳教室を開催します。

教室名	対象
親子スイミング	オムツが取れている幼児とその保護者
チャイルドスイミング	就学前の3~6歳児
小学生(水泳入門・初級・中級)	小学生
一般(水泳入門)	18歳以上
一般クロール(初級)	
一般背泳ぎ(初級)	
一般平泳ぎ(中級)	
一般バタフライ(中級)	
スイムクリニック(上級)	
ナイトスイミング(初級・中級)	
水中運動教室	
通年水泳指導	小学生以上
アクアフィットネス	18歳以上
アクアウォーキング	
気軽に水中運動	個人・団体

各教室の内容・日時・受講料・申込方法等詳細は温水プールまでお問い合わせ下さい。

温水プール TEL 22−6664

平成　19　年度　　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート　事業番号　4－1－2

事業名	競技スポーツ・観るスポーツの支援	評価実施者	所　属	社会教育課スポーツ振興室
			職・氏名	室長　坪田健一

事業の概要

項目	内容
開始年度	
根拠法令等	
特定財源	
実施方法	□直接　□委託　■補助　□負担金　□その他〔　〕
目的	（財）滝川市体育協会の加盟団体と連携し、スポーツ著名人による実技研修会開催や各種大会誘致により、一流選手のプレーを直接観ることで、競技力向上や競技スポーツへの興味・関心を高める機会を提供し、底辺の拡大を図る。
事業内容	市は、（財）滝川市体育協会と連携し、北海道室内棒高跳大会および日本ハム野球教室など毎年継続開催することで、市民（特に子どもたち）に一流選手のプレーを観戦してもらい関心を高めてもらうほか、直接実技指導を受けてもらい技術の向上を図る。

事業コスト

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	特記事項
事業費(A)						
うち一般財源						
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	0	0	0	0	0	※単位：千円

実績と成果

区分			単位	H16	H17	H18	H19	H20
事業の実績（アウトプット）	1	全日本早起き野球大会	人				600	
	2	北海道歯科医師会野球大会	人				700	
	3	吉川なよ子プロゴルフ教室	人	36	48	34	18	
事業の成果（アウトカム）	1	北海道日本ハム野球教室	人	132	102	79	88	
	2	北海道中学校軟式野球大会	人		600	850	800	
	3	第4回北海道室内棒高跳大会	人	120	120	120	120	

左記以外の19年度の実績・成果
○吉川なよ子ﾌﾟﾛｼﾞｭﾆｱｺﾞﾙﾌｸﾗﾌﾞ設立（民間独立）

評価

評価項目	点数	判定及び説明・考察	
1 適応性	7	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4□3□2□1
		②事業を市が行う必要性があるか。	□4■3□2□1
		オリンピックや世界スポーツ大会などで日本選手の活躍により、スケートや水泳、野球などの人気が上がり教室参加者が増えている。また、市は（財）滝川市体育協会および加盟団体等と連携し、平成19年度は全日本早起き野球大会など全国・全道大会の誘致に努めた。（平成19年度は14大会開催）	
2 有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4□3□2□1
		④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4□3□2□1
		平成19年度は、これまで開催してきた吉川なよ子プロジュニアゴルフ教室が民間ゴルフ愛好者等の協力によりクラブを設立し、ジュニアゴルフクラブが誕生した。	
3 目標達成度	8	⑤目標の水準は適切か。	■4□3□2□1
		⑥計画通りに目標を達成できたか。	■4□3□2□1
		スポーツ著名人による実技研修会や講演会の開催と、アスリートのスポーツ教室の開催により、市民が直接観戦・体験できる機会の提供を目標に行った。 平成19年度は、日本ハム野球教室やゴルフ教室の開催で、小学生から一般の市民に実技指導を受ける機会を提供した。	
4 経済性効率性	8	⑦コストは縮減しているか。	■4□3□2□1
		⑧事務は効率的に行われているか。	■4□3□2□1
		吉川なよ子プロのジュニアゴルフクラブの指導時期にあわせて、大人のゴルフ教室を開催して受講料を受益者負担分としていただくなど、コスト縮減や事務の効率化に努めたほか、毎年2月に開催している北海道室内棒高跳大会に向けて、12月から毎月室内棒高跳教室などの合宿を誘致し、サイクリングターミナルを斡旋して効率的な利用促進を図った。	

総合評価

合計	31/32	ランク(A～E)	上記評価を踏まえた事業の課題
↓100点換算	97/100	A	今後、競技スポーツの技術向上のための指導者養成やスポーツ環境・施設整備などが必要である。（グラウンド整備用の土、スポーツ医学やトレーニング指導者育成など） ■拡充　□縮小・統廃合　■質的向上　□ｽﾋﾟｰﾄﾞｱｯﾌﾟ　□検証　□現状維持

◎外部評価

評価項目	点数	判定			点検・評価に関するコメント
1 適応性	7	① ■4□3□2□1	合計	31	全道大会を誘致・開催していることはとても良いことであるが、大会に地元が出ていないのが寂しい。例年開催していきている北海道中学校軟式野球大会に今年も地元のチームが出ていなかった。出場できる対策を図ってほしい。
		② □4■3□2□1	↓	/32	
2 有効性	8	③ ■4□3□2□1	100点換算	97	
		④ ■4□3□2□1		/100	
3 目標達成度	8	⑤ ■4□3□2□1			
		⑥ ■4□3□2□1			
4 経済性効率性	8	⑦ ■4□3□2□1	ランク	A	
		⑧ ■4□3□2□1			

平成　19　年度　**教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート**　事業番号　4－1－3

事業名	海洋スポーツ・冬季スポーツの推進	評価実施者	所属	社会教育課スポーツ振興室
			職・氏名	室長　坪田健一

事業の概要			
開始年度	H6	根拠法令等	特定財源
実施方法	□直接　□委託　■補助　□負担金　□その他〔　　〕		
目的	北海道の特色や地域資源と人材を生かした運動・スポーツの充実を図り、青少年の健全育成と子どもから大人までの市民健康増進を図る。		
事業内容	地域の自然環境を生かしたスポーツ・レクレーションの場として、夏は海洋センターでカヌー・ヨット体験、冬は北電スロープやスケートリンクで冬期間の体力づくりを図る機会を提供する。		

事業コスト

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	特記事項
事業費(A)						
うち一般財源						
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	0	0	0	0	0	※単位：千円

実績と成果

区分			単位	H16	H17	H18	H19	H20
事業の実績（アウトプット）	1							
	2							
	3							
事業の成果（アウトカム）	1	海洋センター利用者数	人	13,921	12,696	15,420	18,160	
	2	北電スロープ利用者数	人	—	6,457	7,426	6,986	
	3	スケートリンク利用者数	人	1,149	2,904	3,335	2,499	

左記以外の19年度の実績・成果

海洋センター利用者数は、全国2位で特A評価を受賞し、平成15年度からの5年連続受賞となった。
また、平成19年度は、年間の活動状況と障害を持つ人でもカヌーを楽しめることが新聞やテレビで取り上げられるなど、その成果が評価されて「2007B＆G広報大賞」を受賞した。

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	6	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	□4 ■3 □2 □1
			②事業を市が行う必要性があるか。	□4 ■3 □2 □1
			周辺に海がない当市では、唯一の海洋性スポーツが体験できる施設である。利用状況は平成10年度から毎年1万人以上を維持し、主に市内外の小・中・高の学校体験学習で利用され、B＆G財団などから高い評価を受けた。 また、北海道の特色である冬期間スポーツとして北電スロープとスケートリンクについても、市内の子どもたちの冬の健康・体力づくりの場として利用された。	
2	有効性	6	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	□4 ■3 □2 □1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	□4 ■3 □2 □1
			石狩川流域の池の前地区の自然を活用して、子どもたちにカヌーやヨットを通して感動体験を提供したほか、小学生から高校生までで組織する「滝川海洋クラブ」の活動として、開設期間延べ1174人が利用し、毎年多くの子どもたちが全道カヌー大会等に出場している。	
3	目標達成度	8	⑤目標の水準は適切か。	■4 □3 □2 □1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	■4 □3 □2 □1
			市内外へのPRとして新聞・テレビ等に取り上げられ、前年度と比較して大幅な利用増加につながった。また、平成15年度から5年連続全国2位・特A評価と初の「2007B＆G広報大賞」を受賞した。 北電スロープとスケートリンクについては、小学1年生を対象にした教室で、スキーやスケートの体験する機会を提供したほか、小学生以下の子どもたちを対象に「スノーレク」を開催し、外での雪遊びを通して運動の楽しさを伝えた。	
4	経済性効率性	7	⑦コストは縮減しているか。	□4 ■3 □2 □1
			⑧事務は効率的に行われているか。	■4 □3 □2 □1
			平成16年度で閉鎖した「空知太スキー場」に代わり開設した北電スロープは子どもたちのチューブやそり滑り、大人の歩くスキーなどで毎年6千人以上、またスケートリンクはフィギアスケート世界大会で日本人選手の活躍により平成17年度から2千人以上の子どもたちに利用されるなど、低コストでの事業推進に努めて利用増を図った。また、海洋センターはインストラクターの配置を市から指定管理者へ移行するなど、経費（人件費）縮減を図る準備を進めた。	

総合評価			
合計	27 /32	ﾗﾝｸ（A～E）	
↓100点換算	84 /100	B	
上記評価を踏まえた事業の課題	①利用料金の受益者相応額を検討。 ②開設期間の検討。 ③指定管理を行っている海洋センターは、指導者が市派遣職員のため、今後指定管理者での指導者育成を検討。（平成20年度は指定管理者で配置する予定） ■拡充　□縮小・統廃合　□質的向上　□ｽﾋﾟｰﾄﾞｱｯﾌﾟ　□検証　□現状維持		

◎外部評価

	評価項目	点数	判定		
1	適応性	6	① □4 ■3 □2 □1	合計	27 /32
			② □4 ■3 □2 □1		
2	有効性	6	③ □4 ■3 □2 □1	↓	
			④ □4 ■3 □2 □1	100点換算	84 /100
3	目標達成度	8	⑤ ■4 □3 □2 □1		
			⑥ ■4 □3 □2 □1		
4	経済性効率性	7	⑦ □4 ■3 □2 □1	ﾗﾝｸ	B
			⑧ ■4 □3 □2 □1		

点検・評価に関するコメント

市民の利用増を考えながら進めてほしい。

平成6年度～平成19年度　海洋センター利用状況表

年度	稼働日数	大会及び行事参加者	教室参加者	海洋クラブ	市内団体利用		その他(市外)団体利用		個人利用者(有料)		市内小中土曜無料	その他	合計
					件数	利用者数	件数	利用者数	小中学生	高校一般			
6	78	2,045	540			1,066	2	212	219	107		926	5,115
7	132	2,008	317			1,376	12	930	497	253		1,047	6,428
8	133	2,094	414			2,139	11	1,017	632	517		884	7,697
9	137	1,147	136			1,967	49	4,272	308	746		539	9,115
10	131	917	130			1,074	59	5,116	579	1,347		1,249	10,412
11	133	635	0			3,241	82	8,071	620	934		922	14,423
12	126	646	0			1,079	75	9,100	411	664		1,105	13,005
13	130	129	0	322	10	501	97	10,377	384	614		1,082	13,409
14	131	65	120	198	22	1,473	93	12,231	412	532	49	847	15,927
15	130	289	5	154	16	1,549	81	9,915	253	358	281	624	13,428
16	133	162	71	187	15	1,215	81	10,663	279	480	188	676	13,921
17	129	291	252	165	12	1,212	67	9,754	211	273	101	437	12,696
18	135	633	339	485	9	1,099	74	10,316	226	367	264	1,691	15,420
19	140	1,140	0	1,174	12	1,237	79	11,399	205	312	258	2,435	18,160

平成　６年度海洋センター利用者　5,115 人
平成　７年度海洋センター利用者　6,428 人　（前年比　２５．６%増）
平成　８年度海洋センター利用者　7,697 人　（前年比　１９．７%増）
平成　９年度海洋センター利用者　9,115 人　（前年比　１８．４%増）
平成１０年度海洋センター利用者　10,412 人　（前年比　１４．２%増）
平成１１年度海洋センター利用者　14,423 人　（前年比　３８．５%増）
平成１２年度海洋センター利用者　13,005 人　（前年比　９．８%減）
平成１３年度海洋センター利用者　13,409 人　（前年比　３．１%増）
平成１４年度海洋センター利用者　15,927 人　（前年比　１８．７%増）
平成１５年度海洋センター利用者　13,428 人　（前年比　１５．６%減）
平成１６年度海洋センター利用者　13,921 人　（前年比　３．７%増）
平成１７年度海洋センター利用者　12,696 人　（前年比　８．８%減）
平成１８年度海洋センター利用者　15,420 人　（前年比　21．4%増）
平成１９年度海洋センター利用者　18,160 人　（前年比　17．8%増）

〈 平成 19 年度Ｂ＆Ｇ評価 〉

滝川市Ｂ＆Ｇ海洋センターの平成１９年度活動評価が全国のセンターの中で最も高い「特Ａ」評価を受け、５年連続受賞となりました。

また、障害者用カヌーの導入や年間の活動などが新聞やテレビで取り上げられた成果が評価され、新聞部門とテレビ部門でそれぞれ優秀賞を受賞し、さらに初の「２００７Ｂ＆Ｇ広報大賞」を受賞しました。

《参考》

○活動評価項目

１．海洋センター利用者人数
２．海洋センターの指導員配置状況
３．地域海洋センター責任者会議への出席状況
４．財団新規事業に対する協力
５．財団事業の活用状況
６．インターネットの整備
７．広報の取り組み
８．海洋クラブ・総合型地域スポーツクラブの状況
９．書類の提出状況
10．大会・教室の実施状況

○広報大賞評価項目

１．テレビ、新聞、地域広報、ホームページの４部門の広報活動で優秀賞評価された中から選ばれる。H19 年度は、滝川市Ｂ＆Ｇ海洋センターがテレビ部門と新聞部門の２つで優秀賞を獲得し、特にテレビ部門では、昨年８月にＵＨＢで放送された番組で、障害を持つ人と一緒にカヌーを楽しめる安全性をアピールしたことが評価された。

平成　19　年度　**教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価シート**　事業番号　4－1－4

事業名	関係団体との連携と各種施設の有効利用

評価実施者	所　属	社会教育課スポーツ振興室
	職・氏名	室長　坪田健一

事業の概要

開始年度		根拠法令等		特定財源	文部科学省委託3,414千円
実施方法	■直接　■委託　■補助　□負担金　□その他〔　　〕				
目　的	各種スポーツイベントの推進、健康・体力づくりの充実化、各種施設の管理と有効活用を図り、「市民一人一スポーツ」推進のために、(財)滝川市体育協会並びにその加盟団体と連携し、スポーツ施設の効率的な運営管理とサービス向上を図ることを目的とする。				
事業内容	平成16年度から導入している指定管理制度の最終年度であることから、老朽化が進んでいるスポーツ施設の修繕などを検討し、今後も指定管理者制度を継続することで募集準備を進める。 また、平成19年度は文部科学省の調査事業を受託し、(財)滝川市体育協会や滝川スポーツクラブ、滝川市体育指導委員会の連携により、幼児を対象に体力向上の取り組みを推進する。				

事業コスト

区　分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特記事項
事業費(A)						
うち一般財源						
人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	0	0	0	0	0	※単位：千円

実績と成果

区		分	単位	H16	H17	H18	H19	H20
事業の実績（アウトプット）	1	体育協会加盟数	団体	31	31	31	30	28
	2	文部科学省事業対象幼児	人	—	—	—	151	
	3	ｻｲｸﾘﾝｸﾞﾀｰﾐﾅﾙ合宿受入件数	件	5	9	18	18	
	4	ｻｲｸﾘﾝｸﾞﾀｰﾐﾅﾙ合宿受入人数	人	189	333	493	1,308	
事業の成果（アウトカム）	1							
	2							

左記以外の19年度の実績・成果

①文部科学省調査事業受託により、おおぞら幼稚園、江部乙保育所、二の坂保育所、中央保育所の幼児151人を対象に体力向上の取り組みを推進した。(3年間事業)

評価

評価項目		点数	判定及び説明・考察	
1	適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■4□3□2□1
			②事業を市が行う必要性があるか。	■4□3□2□1
			スポーツ施設の約90%近くを指定管理による一元管理・運営を進めている。 また、文部科学省調査「幼児期の基礎体力向上」事業を受託し、市内幼児に運動の楽しさを体験してもらい、小学校に入学後に運動好きの児童増加を目指すとともに、保護者にも日常の運動の大切さや重要性を知ってもらい、家庭での生活習慣改善意識の向上を図った。	
2	有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4□3□2□1
			④施策や運営方針等の目的の実現に寄与してるか。	■4□3□2□1
			スポーツ施設の管理運営は、指定管理による効率的な一元管理により、貸館業務や情報発信など市民サービスの向上を図ることができた。 また、直営の温水プールは、水泳協会と連携を図り、各種教室等の開催により健康・体力づくりの充実化を図った。	
3	目標達成度	7	⑤目標の水準は適切か。	■4□3□2□1
			⑥計画通りに目標を達成できたか。	□4■3□2□1
			(財)滝川市体育協会並びに加盟団体との連携と育成支援を図ってきたが、各団体の後継者不足等の理由で脱退する団体があった。 また、誘致した全日本早起き野球大会の開催に向けて石狩川野球場等の整備を行った。	
4	経済性効率性	8	⑦コストは縮減しているか。	■4□3□2□1
			⑧事務は効率的に行われているか。	■4□3□2□1
			指定管理者制度の継続で、スポーツ施設の効率的な運営管理とサービス向上を図ることができた。 また、平成19年度は、大学・高校のスポーツ合宿の誘致を行い、運動施設とサイクリングターミナルの利用促進を図った。(合宿受入人数は前年度比265.3%)	

総合評価

合計	31 /32	ﾗﾝｸ (A～E)	上記評価を踏まえた事業の課題
↓ 100点換算	97 /100	A	①老朽化したスポーツ施設の計画修繕または廃止・統合・新築などの検討が必要である。(温水プール・市民プールなど) ②各スポーツ施設の利用料金見直しの検討が必要である。(受益者負担の検討) ③(財)滝川市体育協会加盟団体の育成支援・強化が必要である。 ④特に利用の少ない曜日や時間帯の利用増を図る必要がある。 ■拡充　□縮小・統廃合　□質的向上　□ｽﾋﾟｰﾄﾞｱｯﾌﾟ　□検証　□現状維持

◎外部評価

評価項目		点数	判定				点検・評価に関するコメント
1	適応性	8	①	■4□3□2□1	合計	31	中部大学等の合宿利用がまだあると思うので、宿泊施設の食事や施設の充実を図り、利用しやすい管理を行うことが必要である。利用しやすい施設管理を行うために、施設整備のプロ指導を受けることも一つだと思う。
			②	■4□3□2□1			
2	有効性	8	③	■4□3□2□1	↓	/32	
			④	■4□3□2□1	100点換算	97 /100	
3	目標達成度	7	⑤	■4□3□2□1			
			⑥	□4■3□2□1			
4	経済性効率性	8	⑦	■4□3□2□1	ﾗﾝｸ	A	
			⑧	■4□3□2□1			